


台湾情報誌

# 交流

2011年8月 vol.845

財団法人 交流協会  
Interchange Association, Japan



台湾デジタルコンテンツビジネス事情  
～電子書籍を中心に～

# 交流

2011年8月  
vol. 845

## 目次

CONTENTS

台湾デジタルコンテンツビジネス事情 ～電子書籍を中心に～ …… 1 (田所陽一)	
(財)交流協会 学生交流事業 …… 8	
COMPUTEX Taipei 2011 レポート …… 26 (吉村章)	
【台湾海峡をめぐる動向】 「ECFA 調印 1 年と中国人観光客の個人旅行解禁」 …… 36 (松本充豊)	
コラム：日台交流の現場から 若者の目の輝き、日本は如何 …… 47	
編集後記 …… 48	

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、(財)交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、(財)交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

### ●● 交流協会について ●●

財団法人交流協会は、1972年（昭和47年）、日本と台湾との間の、実務レベルでの交流関係を維持するため、台湾在留邦人及び邦人旅行者の入域、滞在、子女教育及び日台間の学術・文化交流等につき、各種の便宜を図ること、我が国と台湾との貿易、経済、技術交流等の諸関係を円滑に遂行することを目的として、外務省・通商産業省（当時）の認可を受け設立されました。よって、財団法人ではありますが、外交関係の無い日台間において準公的性格を有する機関であり、台北・高雄事務所は、それぞれ大使館、総領事館と同じような役割を果たしております。



# 台湾デジタルコンテンツビジネス事情 ～電子書籍を中心に～

NPO 法人アジア IT ビジネス研究会

理事 田所陽一



台湾のデジタルコンテンツ産業は堅調な成長を遂げている。従来はオンラインゲームやアニメーションの分野が政府の主たる支援先であったが、ここ数年はアマゾンの電子書籍リーダー「キンドル」やアップルのタブレット PC「iPad」などの発売が引き起こした世界的な電子書籍ブームの波を受けて、電子書籍の分野により重点が置かれるようになった。実はキンドルや iPad は台湾の EMS メーカー鴻海によって製造されており、その他のメーカーの端末もほとんどがメイド・イン・タイワンか台湾企業が中国等で製造したものである。このことからわかるとおり、電子書籍の分野は、台湾がもともと持っているハードウェア生産能力を土台にした上で、コンテンツ産業の成長を図れる可能性があり、その点が政府が支援に乗り出す根拠ともなっている。

昨年(2010年)の『交流』5月号では、「台湾のアニメ産業」の最新事情を報告したが、今回は台湾政府のデジタルコンテンツ産業全体の振興政策を踏まえた上で、重点分野である電子書籍関連分野の最新動向を7月に台北で関連企業や団体をヒアリングした結果を交えてご報告したい。

## 1 台湾デジタルコンテンツ産業振興政策の最新事情

台湾政府内でデジタルコンテンツ産業を所轄するのは、経済部の工業局の中に2002年6月に設置された「数位内容産業推動弁公室」(Digital Content Industry Promotion Office、略称 DCIPO)である。

行政院の「6大新興産業計画」(ツーリズム、グリーンエネルギー、ヘルスケア、バイオテクノロジー、

農産物、文化創意産業)に基づき、2009年5月に「創意台湾—文化創意産業發展方案」が立案された。ここで言う文化創意産業とは、テレビ番組、映画、ポップミュージック、デジタルコンテンツ、デザイン産業、工芸品のことをいう。

この中で DCIPO が定義するデジタルコンテンツは、以下の8分野を指す。関連作業までコンテンツ産業に含めている点が日本と異なる点がある。

### (主要産業)

- ① デジタルゲーム (PC ゲーム、コンソールゲーム、携帯ゲーム)
- ② コンピュータアニメーション (テレビ・劇場用アニメ、企業宣伝アニメ、ライセンスビジネス)
- ③ eラーニング (教材制作、ソフトウェア開発、プラットフォーム開発)
- ④ デジタル出版&アーカイブ (電子出版、電子辞書、流通プラットフォーム、アーカイブデータベースなど)
- ⑤ デジタルオーディオ&ビデオ (デジタル音楽、カラオケ配信、デジタル映画&テレビ、デジタル放送)

### (関連産業)

- ⑥ モバイルアプリケーション (モバイルコンテンツ、GPS サービス)
- ⑦ ウェブサービス (インターネットコンテンツプロバイダー、インターネットサービスプロバイダー、インターネットデータセンター、インターネットアプリケーションシステム)
- ⑧ コンテンツ・プロセッシング・ソフトウェア (マルチメディアプロダクションツール、DRM、ウェブサイトコンテンツマネジメント)



写真1 胡 迪福氏(經濟部 数位内容産業推動弁公室 組長)

行政院は、台湾をエンタテインメントとマルチメディアにおける世界のトップリーダーへ発展させることをビジョンに、台湾のデジタルコンテンツ産業の発展戦略として、①産業規模を成長させるためのハードウェアとソフトウェアの統合、②海外販売と兩岸産業交流の促進、③創作の多様化と投資の奨励、④産学連携と人材育成の拡大を掲げている。これを受けて、DCIPO は、①産業発展、②人材育成、③市場拡大、④eラーニングとデジタルアーカイブの4つを柱とする様々な活動を行っている。(写真1)

とりわけ近年は、先に掲げたデジタルコンテンツ産業の8分野の中で、デジタル出版に力点を置いている。この部分については本稿の後半で詳述する。

## 2 台湾デジタルコンテンツビジネスの概況

經濟部工業局発行、財団法人資訊工業策進会編纂による「2010 数位内容産業年鑑」によれば、2010年の台湾デジタルコンテンツ産業全体の市場規模は約5225億台湾ドルとされ、前年の4603億台湾ドルと比べて約13.51%の成長を見せた。前述8分野ごとの成長率は、以下のとおりである。

### ①デジタルゲーム

422億台湾ドル (前年比19.2%増)

### ②コンピュータアニメーション

43億台湾ドル (前年比7.5%増)

### ③eラーニング

266億台湾ドル (前年比73.9%増)

### ④デジタル出版&アーカイブ

493億台湾ドル (前年比74.2%増)

### ⑤デジタルオーディオ&ビデオ

451億台湾ドル (前年比7.4%増)

### ⑥モバイルアプリケーション

522億台湾ドル (前年比16.0%増)

### ⑦ウェブサービス

1355億台湾ドル (前年比12.0%増)

### ⑧コンテンツソフトウェア

1673億台湾ドル (前年比1.2%減)

このように、高い成長率を示しているのがデジタル出版&アーカイブ分野(+74.2%)やeラーニング分野(+73.9%)であり、政府が力点を置いている裏づけとなっている。一方、デジタルゲーム分野(+19.2%)やモバイルアプリケーション分野(+16.0%)は引き続き安定した成長を見せているが、コンピュータアニメーション(+7.5%)やデジタルオーディオ&ビジュアル分野(+7.4%)は伸び悩んでおり、てこ入れが急務となっている。

なお、台湾政府が主催するコンテンツに特化したイベントとしては、2009年から始まった「デジタルタイペイ (Digital Taipei)」がある。このイベントは台湾をアジアのデジタルコンテンツビジネスの中心、特に「The Gateway to the Greater China!」のキャッチフレーズが示すように中国語圏への入り口と位置づけたものである。(写真2) 具体的には台湾の様々なデジタルコンテンツ&サービスをグローバルにプロモーションする企業出展ブースのほか、中国から出展企業や参観者を招いて商談会や交流会、フォーラムを開くことである。(写真3) 3回目となる今年は10月27日から28日まで開催が予定されている(公式サイ





写真2 Digital Taipei 2010 の展示会場の様子



写真3 Digital Taipei 2010 の两岸フォーラムの様子

ト：<http://www.dgtaipei.tw/>）。

### 3 台湾電子書籍ビジネス事情

前述したとおり、2010年の台湾の電子書籍&アーカイブ分野の市場規模は前年比74.2%増の約493億台湾ドルとされている。この74.2%増という数字は世界的に高まる電子書籍産業のトレンドと軌を一にするものである。

実際、冒頭に述べたとおり、世界に流通する電子書籍端末やタブレットPCのほとんどが台湾企業の製造によるか、台湾企業の海外工場で製造されたものであり、ことハードウェアに関して言えば、台湾が世界の電子書籍市場で果たしている役

割は大きい。

ところが、本稿のテーマであるコンテンツについて言えば、多くの台湾の出版社や中華電信などの通信大手が電子書籍販売サービスを展開しているにもかかわらず、台湾の電子書籍市場は先行するアメリカや日本、さらに急成長を遂げている中国の市場と比べても非常に小さく、また今後の成長を阻害する要因が多い。

その最大の要因が、コンテンツの少なさである。人口約2300万人にすぎない台湾市場で出版ビジネスを行うのはもともと困難であり、多くの台湾の出版社は日本や欧米の出版社から版權を買い取って、中国語（繁体字）へ翻訳して出版している。実際、ベストセラーの多くは海外の翻訳もので占められており、台湾の出版業界は翻訳ものへの依存度が高い。ところが、これら翻訳ものを電子出版化する権利は台湾側ではなく、オリジナル版を出版した海外の出版社にあり、権利取得に複雑なプロセスを踏まなくてはならないため、台湾の電子書籍市場で流通するコンテンツは非常に限られたものとなっている。

また、現在のところ、台湾の消費者の電子書籍に対する関心は世界的に見ても決して高いとは言えない。たとえば、ボストンコンサルティンググループが2010年12月に世界16カ国・地域の1万4000人の消費者に対して実施した「電子書籍リーダー端末の認知度」調査によると、電子書籍リーダー端末について「ある程度知識がある」「かなり知識がある」「すでに持っている」と答えた回答者の割合は中国が最も高く73%だったのに対し、台湾は16カ国・地域中10位の50%に止まり、日本（第3位68%）やアメリカ（第4位67%）、韓国（第5位59%）にも大きく引き離された。そのほか、台湾の政府系シンクタンク財団法人資訊工業策進会が2010年に行った「台湾民衆電子書閱讀現況と市場商機報告」を見ても、電子書籍の認知度は「電子書籍を聞いたことがあるが使ったこ

とはない」(63.6%)、「電子書籍がどのようなものなのかまったくわからない」(26.6%)に対し、「電子書籍について十分に理解し、他人に操作方法や使用体験を説明できる」と答えたのはわずか2.7%という結果になっている。

このように、国内市場が未発達なため、台湾の電子書籍関係各社は、他のデジタルコンテンツ分野と同様、国内市場よりも海外市場、とりわけ現在は中国や他の華人市場向けのビジネスを志向する姿勢が強い。

日本の出版業界も今後の中国市場進出を見据えて、台湾との連携強化に乗り出している。日本の大手出版社34社を中心に2010年3月に発足した「日本電子書籍出版社協会」は同年7月に小学館や講談社、文藝春秋、中央公論新社などの幹部からなる訪台団を派遣し台湾の端末メーカーと協力関係を探った。同訪台団はこのとき馬英九総統とも面会し、馬総統は中台間の経済協力枠組協議(ECFA)の対象に電子書籍を盛り込む考えを示した。とりわけ、講談社は2011年2月に台湾の出版大手「城邦メディアグループ」と業務提携を行い、書籍や雑誌などの自社コンテンツを中国語化して、台湾経由で中国や他の華人市場向けに配信する構想を表明している。

#### 4 台湾電子書籍関係者ヒアリングレポート

以下は台湾の関係各社や業界団体に今回(2011年7月)ヒアリングした結果である。

##### (1) エイサー

台湾を代表するITベンダー。自社製PCの付加価値をつける目的で、電子書籍の分野に2004年7月にアメリカの電子雑誌販売サービス「Zinio」と提携する形で参入。Zinioの中国や香港市場を含んだ中華圏の代理店として現在までに中国語版雑誌100種類(例:『商業週刊』『天下雑誌』『経理人』)を販売し、累計販売部数は26万冊を達成。(写真4)(写真5)



写真4 徐正隆氏(エイサー 電子出版サービスプラットフォーム 経理)



写真5 エイサーが運営するZinioのサイト画面

##### (2) 拾一本数位文化股份有限公司 BOOK11.com

液晶パネルを中核とする奇美(Chimei)実業グループの一社として2009年6月創業。電子書籍の翻訳・制作・取次・販売事業を行う。日本の出版社のコンテンツを中国語化して世界中の中国語読者(中国13億人、台湾2300万人、香港・マカオ820万人、東南アジア&その他800万人)に配信するビジネスを行う。同様のサービスを行っている台湾の競合会社には、台湾通信最大手の中華電信が運営するHamiや大手ITベンダーBenQが運営するeBookTaiwanなどがあるが、PCや各社の電子書籍端末、iPhoneなどアップルのデバイス、アンドロイドなどあらゆるデバイスに対応することで優位性を持っている。すでに日本の電子書店パピレスと提携し、主にBL(ボーイズラブ)





写真6 李 佳翰氏 (BOOK11 版權国際合作開発 協理)



写真8 翁 嘉宏氏 (台湾数位出版聯盟協会 秘書長、尚美読書網路股份有限公司 總經理)



写真7 BOOK11のサイト画面

系やレディースコミックスの提供を行っているが、これらの分野を選んでいるのは電子化の権利がとりにくい外国製コンテンツの中で比較的権利がとりやすく、なおかつまだ知られていないコンテンツが多いため独自性を出せるという戦略からだという。そのほか、日本の朝日新聞や携帯コンテンツ会社 menue、Boiled Eggs などとも提携関係にある。(写真6)(写真7)

### (3) 台湾数位出版聯盟協会 (Association of Taiwan Digital Publishing Alliance)

食品メーカーとして知られる義美 (I-mei) グループが環境保護活動の一環として社内誌の電子化を進めたことをきっかけに、中小出版社の電子化サポートのために2008年に7月30日に設立。台湾の7大出版業界団体のうち4団体(台北市出版商業同業公会、中華民國図書発行協進会、中華

民国図書出版事業協会、財団法人中華出版基金会)と台湾英字新聞が共同設立発起人である。会員出版社は現在約1000社。電子化の資金やノウハウに乏しい中小出版のために定期的に勉強会を開催している。下記の台湾数位出版聯盟とは政府支援の獲得の際にはライバル関係となる一方、業界の発展のための共同でイベントを行うこともあるという。(写真8)

### (4) 台湾数位出版聯盟 (Taiwan Digital Publishing Forum)

2008年7月7日に設立されたもう一つの業界団体。前述の台湾数位出版聯盟協会が主に中小規模の出版社で構成されているのに対し、比較的規模の大きな出版社および端末メーカーや電子書籍販売会社など100社で構成されている。

現在の理事長は台湾を代表する出版大手「城邦メディアグループ」(cite) CEOの何飛鵬氏。城邦は複数の出版社やゲーム会社、インターネット会社からなるグループであり、単行本以外に約40種類の雑誌を発行している。何氏自身もジャーナリスト出身で『商業週刊』などの発行人を務めたり、多数の著書を執筆するなど、台湾を代表する出版人の一人である。以下、今回のヒアリング内容を下記に記す。(写真9)



写真9 何飛鵬氏（台湾数位出版聯盟 理事長、城邦文化事業股份有限公司 CEO）

Q 聯盟の設立目的は何か？ また会員企業数は？

A 出版社を中心に、エイサーやHTCなどの電子書籍端末メーカーやソフトウェア会社、中華電信などの通信会社、放送局など業界に影響力の強い100社あまりからなる。電子書籍という新しい生活スタイルや文化に対し、上流（端末メーカー）から下流（出版社）までの各プレイヤーが互いの利益配分をいかに適切にしていけるかを話し合うのが主たる目的だ。政府からも支援を受けている。

Q 現在の台湾の電子出版市場の状況はどうか？

A 非常に小さい。コンテンツが少ないし、デバイスの普及もまだまだ遅れている。現在キンドルなどの電子書籍端末やiPadなどのタブレット型PCを合わせた普及台数は20万台にすぎないが、今後は30~40万台が見込まれる。また、台湾では日本と違って携帯電話で書籍を読む習慣が定着しておらず、中国と比べても低い。この状況を打開していかに台湾に電子書籍を根づかせるのも聯盟の使命である。

Q では、中国の電子出版市場をどう考えている

か？

A 今年7月に北京で行われた電子書籍フォーラムに招待され講演もしてきた。中国の伝統的な出版社は電子書籍に対して保守的な姿勢であり、むしろ漢王や盛大、中国移動などのIT関連会社がイニシアチブをとっている。海賊版などの違法コンテンツが多く、出版社から政府に対して対策を求める声が強まっている。キンドル型のモノクロタイプの端末は価格が800元（人民元）を切るものが始まっており、急速に普及が始まっている。

Q では、中国のほうが台湾より先に電子書籍の市場が出来上がりつつあると見るか？

A 中国は人口も多いので確かに市場が出来上がりつつある。ただし、業界の秩序がない。海賊版の問題もそうだが、利益の配分も疑問だ。たとえば中国移動の場合、1つのコンテンツに対する売上のうち、制作会社の取り分よりも通信会社の取り分のほうが多い。これは健全だとは思わない。端末の普及台数はもうすぐ300万台になり、電子書籍を読む習慣は着実に根づき始めているが、読まれているコンテンツの多くは海賊版や違法ダウンロードによるものだ。

Q 講談社と城邦との提携が発表されたがそのいきさつは？

A 提携内容については現在協議中なので詳しい話はできない。基本的には講談社の持つ様々なコンテンツを台湾で中国語化し、台湾から中国や華人圏へ発信していく形になると思う。これまでお互いに長いビジネス上のつきあいがあり、その中で自然に生まれた話なので、どちらかが主体的に働きかけたということではない。

Q 電子書籍における日本と台湾のコラボレーションの可能性をどう考えているか？



A これまでも出版業界における日台の関係は非常に密接だった。書籍や雑誌、コミックなど日本から台湾に入ってきたコンテンツは膨大である。今後中国語化やデジタル化の部分で台湾が日本にとって頼りにできるパートナーとなるのは間違いないと思う。ただし、お互いの利益配分をどうするかが課題だ。すでに我々の聯盟は日本の電子書籍出版社協会とパートナー関係にあり、ロイヤルティの配分などいろいろな分野で協議を進めている。共同で中国市場へ進出することももちろんテーマの1つだ。

Q 日台提携での中国進出について何か障壁はあるか？

A まだはっきりは見えてない。今後の展開で見えることもあるかと思う。共同で中国のブックフェアに出展する可能性もあるだろう。

Q 何さんが理事長を務める聯盟は日本の中小の出版社のサポートも行うのか？

A 規模の大小に関係なく、お互いに協力できる場所があればどこでも協力していきたい。

## 5. 最後に

以上、台湾の電子書籍ビジネスの最新事情について様々な観点から述べてきた。これまでの出版ビジネスにおける日台関係は、日本=コンテンツの提供者、台湾=コンテンツの消費者というのが主たる図式であったが、電子書籍については台湾の持つハードウェア（端末）生産能力や中国語化能力などの面で対等な関係の構築が可能と言える。

台湾と同じ中国語を使い同じ文化圏にある中国では、ここ1~2年、予想を超えるスピードで急速に電子書籍の市場が立ち上がりつつある。もちろん、何飛鵬氏のコメントにもあるように違法コンテンツが跋扈し、コンテンツ制作側への十分な利益配分も行われていない過渡期の状態であると言えるが、国内市場の縮小に悩む日本の出版業界にとっても中国市場の開拓は急務である。その意味で、中国と同じ言語・文化的背景を持つ一方、日本の出版コンテンツにも慣れ親しみ、ビジネス経験も長きにわたる台湾企業は、海外ビジネスノウハウの乏しい日本の出版社にとって有力なパートナーになりうるであろう。今後のさらなる関係強化が期待されるところである。

## (財)交流協会 学生交流事業

交流協会では、日本と台湾との若者世代の交流促進に重点をおいており、日本・台湾の高校生及び大学生・大学院生の招聘・派遣等の事業を行っております。

本招聘は、2010年度の重点事項として挙げられた地方交流の推進を具体化するため平成23年2月6日から13日までの間沖縄本島を訪問し、ホームステイ・平和学習・文化体験などの活動を通じて日本及び沖縄文化に対する理解を一層深めることを期待し、実施したものです。

今回招聘した18名のうち、男女各3名の訪日報告書をここにご紹介致します。

### 花蓮高校生訪日団報告書

花蓮高級中學2年

張元禎



私は花蓮高級中学二年生社会班にいます。複雑な理系と相対する必要はありませんが、才能や語学能力を伸ばすことを目的としています。なぜ日本に憧れを抱いているか、なぜ何度もチャンスを掴んで日本に行こうとするのか……

子供のころテレビでとてもきれいな水が流れているのを見ました。川の傍には桜が咲いていて、風に揺られ散っていきました。まるで桜吹雪のように舞い、とても綺麗で、川に舞い降りて流れに身を任せていました。また地面に落ちて桜はまた風に舞いあげられますが、全く入り乱れる感じはありません。なぜならそれは大自然の摂理であり、所謂缶詰やティッシュのような人工の産物が添えられていないからです。私がこの珍しい場所に理解できていない時、テレビ番組のロケ地が日本であることを知りました。

おそらくあの光景によって私は日本に対して好印象を持ち、憧れを抱いたのだと思います。一体どのような文化によって台湾人は「made in

Japan」を見ると買わずにはいられなくなるのでしょうか。どのような考えをすれば「アニメ」のような全世界の若者を取り込む文化が生まれるのでしょうか。テレビや雑誌で知りうる日本には限界があります。北海道の雪景色と温泉、春の桜、沖縄のリゾート、和服と浴衣、祭り、それに清潔な道路や公共施設……等々。しかしこれらを知ったところで、私のこの国に対する好奇心と憧れは満足できません。ですから身を持って体験し、人との交流することでこの国の文化や生活を学び理解しようと決めました。

夜になると習慣で今日の夕食が気になります。またどんなテレビ番組を見ようか……「しまった、ここは……沖縄だった！

出発日の朝、私は特に早く起き、準備の確認も終わりゆったりしていても集合時間にはまだ余裕がありました。ゆっくりと駅へ向かう途中、私の心はとてもかき乱され、まるで感情が爆発しそうでした。ずっとこの日が来るのを楽しみにしていました。ですから毎日の生活に起こること全てに気をつけていました。これから起こる活動に対してなぜこんなにも興奮しているのだろうか。本当の答えはきっと帰国した時にわかるのだと思います。

2日目の行程は那覇市の沖縄県庁で幹部へ表敬訪問することでした。県庁の展望台では沖縄県庁の模型がありましたが、そこから規則や順序、ま

た行政の効率化が見て取れます。道路の敷設計画、建築物の建築計画、それらの計画はとてもきちり整っており、日常を便利にしてくれています。しかし私の実家と比べると言葉に表せないほどの美しさがあります。

年齢の近い私たちが集まると、毎日の活動、食事では例えあまり他校の様子を知らなくても、言葉と行動でお互いを知り得ます。積極的に相手を理解し、知ろうとします。恐らくこれも活動の目的なんだと思います。ここに集まっているということは、つまりみんな日本に対して憧れを持っていることを意味し、同じ興味を持っているもの同士、仲良くなれない理由はありません。

高校交流は活動の重要部分の一つです。制服の制限がないのが特色の1つである真和志高校のクリエイティブアーツコースとの交流を主軸に、美術を堪能し交流する2時限の授業が始まりました。芸術性豊富だと自認している私ですら彼らの精緻な技巧と美しさに感嘆しました。日本のアニメ文化は世界に広がっています。しかしこの時ここでこんなに素晴らしい漫画の絵を見られたことは私のアニメに対する期待を裏切らない結果でした。日本人は本当に文化を広げようとする精神を持っています。

その後名桜大学の大学生との交流や瀬名波学長の講演を聞きました。

辛く不安だった時代、天皇に命を預けた青年は結婚も仕事も成長すらも間に合わず、残酷な戦場へと送られました。

1945年太平洋戦争で沖縄は攻め込まれました。日本本土を守るため、戦略上沖縄の犠牲に変えて本土の防衛準備時間を稼ぎました。米軍の強硬な攻撃と武力によって次第に領土を失い、また被害者も増えました。無情な砲弾、壊れた家々、何の罪もない一般市民ですら戦争の影響を受けることは免れませんでした。当時の軍人教育下では高校生であっても両親に別れの挨拶もできぬまま戦場

に送られました。忠誠を誓うのは天皇であり、まるで全てのことが自分と関係していないかのように、命が流れ星のように輝き、そして散っていきました。

鉄血勤皇隊はその名の通り天皇のために戦う熱い魂を持った軍隊です。米軍と激しい攻防戦を展開し、最終的に武力や兵力の違いにより、死者・負傷者が増え、「降伏するくらいなら死を」という当時の軍人たちの教育理念により大勢が命を絶ちました。軍人たちも死ぬことで自らの志を表しました。沖縄戦は太平洋戦争で死傷者が最も多く、一般庶民、米軍、英軍、日本軍及び東アジア地域から招集された兵士はみな作戦中に命を落としました。

敗戦後、日本は平和の尊さを身を持って体験したため、二度と他国を侵略しない法律を制定しました。戦場では戦死者以外にも集団切腹自殺した人もいて、戦争は沖縄県人に永遠に痛みをもたらしました。そのため世界の人に戦争の無意味さを理解させるため、ここに参観に来た観光客は記念館の文献や写真からそれらを深く感じられるようになっています。

2日間は民泊の共同生活でした。私たちは数グループに分かれました。1グループ約4名程度で、違った民泊先に振り分けられ、異なった生活体験をしました。私はS家にお世話になることになりました。素朴な自営農業をしているお宅です。

付近は純粋な農村地区で、じっくり見ないと花蓮の実家と間違ふほどです。紅イモを掘り、エンドウ豆を収穫しました。農家の体験を通して日本のサトウキビと台湾のサトウキビの違い、農業形態の違いがわかりました。民泊先は極々普通でしたが、唯一実家と異なったのは和室と庭の机、それと窓です。窓には防犯装置や2重の鍵などは必要ありません。なぜなら泥棒が入ることは稀だからです。これは台湾が見習わなければならない道徳的価値観だと思います。

この2日間の民泊体験は日本語でしか話しが通



じません。私たち4人の中では恐らく私の日本語能力は2番目で、みんなもう一人の日本語の達人に頼りきりでした。海や川や畑に行った2日間での生活にも慣れてきました。3食全て沖縄の郷土料理で、民泊のお父さんお母さんとも次第に仲良くなりました。言葉はあまり通じませんが、お互いの考えは理解できました。別れの時はたった2日間でしたが、みんな特別な感情を持っているようでした。

別れの時、みんな別れがたく涙を流す人もいましたが、私は悲しい別れをしたくなかったので、笑顔で彼らの温かいもてなしに感謝しようと決めました。「今度沖縄へ来たら、また遊びに来なさい」、最後にお母さんがこう言ってくれました。

8日間日本人と交流して、言語・文化・環境などは台湾とよく似ている沖縄ですが、服装・振る舞い・建築・環境・言語などは台湾と違いを感じました。現在華人が世界で台頭してきており、中国語はアジアの主流になっています。音節や語気が全く日本語と異なっていますが、日本人が真面目に学習しているのを見て心地よく、また感動しました。日本人が私たちに中国語を話す時語調が可笑しかったです、とても一生懸命だと感じました。

民泊の時、おじいさんとおばあさんは私たちを沖縄文化村へ連れて行き、沖縄民族楽器である三線を体験させてくれた他、民話を話してくれました。

民話ではあるおじいさんとおばあさんが路上でシーサーに出会い、お酒をふるまったそうです。とても面白く神秘的でした。演舞者の踊りと楽器でとても生き生きと表現していました。

偶然にも見学者であった私たち4人は演舞者の温かい誘いによって舞台の上で踊りを踊ることができました。短い棒と鼓を持ってドンドンシュッシュと体を揺り動かし始めました。更に三味線の音も加わり踊りを思う存分楽しみました。もともと演舞者が着ている民族衣装は和服や浴衣などの日本式伝統衣装かと思っておりましたが、驚いたこ

とに全く日本風ではなく、古代中国の服装に似ていました。

沖縄独特の文化を体験して、台湾の文化にため息をもらしてしまいました。伝承と認識、これらは台湾では軽視されていて、異なった経営により文化特色が具現化し、観衆と一緒にされる見せ方は台湾の少数民族に勝っています。文化習慣には上下の違いはありませんが、経営における伝統伝達方面は遠く日本には及びません。

かつて戦場だった沖縄で、幽霊など怪談の他に、国民を守り、大勢の命を守ったのは沖縄の地理景観、地下鍾乳洞です。

私たち20数名は狭く暗くまた生温かい地下で、行動することも難しかったです。当時は数百年前がここに隠れて、恐怖と対面していたなんて信じられません。避難する時家族と離散してしまっただけかもしれません、体が不調だったかもしれません、しかしここではとても注意深く行動しなければなりません。敵に見つかっては数百人が殺されることになります。ただずっと安心を待ち続けたのです。連日の砲弾、砲弾が着弾する時の破壊音が頭の上で鳴り響いています。そのたびに起こる揺れ、そして不安。とっくに家を捨てて死ぬ覚悟がある中で、家族の平安や自分自身の命にうっすらと望みを持っていたのかもしれない。夜空を昼間のように照らす砲火は一体いつ終わるのか分かりません。戦争の勝敗はすでに重要ではありません。人々の心には生き延びるんだという思いが生まれていたのだと思います。

戦争終結の日、苦しみを痛いほど味わった人たちは地下の防空壕から出てきました。鬱蒼とした森林が荒れ果てた平地に変わったのを見て感慨無量だったと思います。そんな時敵軍の影が現れてもきっともう敵意は無く、ただ従順に従うだけです。恐らく米軍の善意ある援助と協力、かたき討ち、復讐など考える勇気はなくなり、「教訓を得た」と思ったのかもしれない。

今回の沖縄訪問で言えることは「実りが多かった」ということです。日本本土の文化に比べて沖縄特有の文化は初めて体験したことであり、とても特別で新鮮でした。

台湾は世界に羽ばたき、外交の制限を受けないことをずっと願っています。財団法人交流協会の手配のもと、外交に関する人材育成や視野を広げようとする決意を感じました。私もこの政府行政に対し親指を立てて応援します。海外での交流機会、まさか東部の学生がこのような機会を得られるとは思ってもみませんでした。恐らく北部の名門校では多いのでしょう。これは都会と田舎の距離を縮めるために政府高官が行った努力の1つなのでしょうか。

今回の活動に参加できたことはとても光栄に思います。実利主義の競争と比べ世界的な観点を養い、視野を広げることは、私たちの国でより改善しなければならないことです。世界に出たらその長所を勉強し、また私たちの短所を知ることができます。国の富強は今後に期待します。

交流協会みなさんに感謝します。交流協会と沖縄の民泊家庭のおかげで交流の真の意味を学びました。

## 訪日の感想

花蓮高級農業職業学校1年  
劉昀



交流協会が主催した花蓮高校生訪日団交流事業には、面接などの選考を経て今回の機会を得ることができました。ですから私にとってとても大切なものです。特にこの機会では日本の高校生・大学生と交流する得難いチャンスもありました。私の名前は劉昀です。花蓮農業職業学校加工科の1年生で

す。今回の活動に参加できてとても嬉しく思います。この活動を通して海外で異なった文化を体験してみたいと思います。私は小さいころから台湾で育ち、台湾の文化教育を受けてきました。自分の国と異なった文化や言語と接する機会はほとんどありません。高校生交流では日本の学生と台湾の学生の生活上の違いを理解したいと思っています。

今回私たちは多くの沖縄の歴史に関する場所を訪れました。瀬名波学長の講演を聞いた時には身震いしました。学長は戦争当時の様子を語ってくれました。当時の学生はどのようにして招集され戦



争へ行ったのか、学校の先生は戦争準備のために両親と最後の対面を果たすよう指示したけれども、時間がなく対面が果たせなかったこと、自分の命を賭けて戦争へ行ったこと、年齢にかかわらず、国家に忠誠を尽くさなければならなかったこと等々。学長が米軍に見つかった際自分の命を守るため本能的に両手を挙げ投降しました。しかし当時の教育では天皇に忠誠を尽くさなければなりません。自分の生命を賭してでも敵を迎え撃たなければなりません。学長から当時どのように過ごしていたか、戦争の状況下で勉強ができなかったことを聞きました。子供が国のために戦争に行くなんてとても残酷なことです。彼らはこの血なまぐさい状況と向き合わなければいけませんでした。逃げる時には少なからず地元住民の死体を見たと思います。このような場面は小さな子供にとって大きな衝撃です。現在の生活を考えてみると私たちはどんなに幸福なんですか。教室で安心して授業を受けられ、銃弾が飛んでくることを心配する必要もありませんし、両親と最後の対



面をする必要もありません。血なまぐさい殺戮と向き合う必要もありません。私たちはただ自分の学業成績に責任を負い、学生としての本分を全うし、師を敬い同級生を愛すだけでいいのです。こんなに簡単なことをどうして私たちはうまくこなせないのでしょうか。

日本到着後、私が一番期待していたのは民泊先家族との対面です。これは日本人とすぐ近くで接することができるとても貴重な機会です。一日目の夜はとても興奮していたのでしょう。みんな遅くまでおしゃべりをしました。翌日は朝早く起きて朝食を作りました。お母さんは卵焼きの作り方を教えてくれました。私は傍で見ながら勉強しました。一番難しいと感じたのは焼き色を付けることです。もともとの薄い色をゆっくりと焼くことで焼き色が付き、出来上がりです。正午が近づいてくると沖縄で有名な「サーターアンダギー」を作りました。あまり難しくなく、全ての過程をほとんど私たちが行いました。お父さんは私たちが作り終えるころ、制作過程を撮影してみんなにくれました。この行動はとても温かく感じました。恐らく私たちが忘れてしまうのを恐れたのかもしれませんが、もしかすると私たちが台湾に戻ってこのお菓子を台湾の友人や家族に作ってあげてほしいと考えたのかもしれませんが。午後お父さんは私たちを沖縄ワールドへ連れて行き、ショーを見せて

くれました。どの演舞者も力強く太鼓を打ち鳴らし、私は見入ってしまいました。強烈な文化の雰囲気を感じました。一度打つと一度叫ぶ、文化意識は私の心の中に刻み込まれました。ショーが終わる時、私も現地沖縄県人の熱意を感じました。彼らは舞台下にいた私たちを呼んで、舞台上と一緒に踊りを踊りました。私たちはあのような踊りの歩き方、リズム、掛け声はできませんが、舞台上と一緒に踊っているととても楽しい気持ちになりました。恥ずかしがる必要はありません。私の動作が可笑しくて笑う人はいません。一つの大きな輪には、異なった場所から来た観光客がいました。もちろん日本本土からきた観光客もいます。このようにみんなが大きな輪を作り一緒に踊りを踊るといのはまるで一つの大家族のようです。沖縄の海は私がこれまで見た中で一番美しかったです。海風が涼しく、私たち数人は靴を脱いで海の中に入りました。とても浅く、緑や青がとても綺麗でした。砂は黄色く、花蓮の玉石海岸とは大きく違いました。私たちは砂浜に字や絵を描き、城を作ったりしました。どれも初めての体験でした。私たちは一生懸命この一瞬の美しい景色を記憶しようとしていました。2日間お父さんにお世話になってとても感謝しています。すこし面倒もかけましたが、やさしく「大丈夫だよ」と言ってくれたことで、とても温かい気持ちになりました。一番重要なことはお父さんが三線の先生を呼んで私たちに教えてくれたことです。数時間でしたが、私たちは基本的な音階と簡単な曲を学びました。この2日間とても充実していました。沖縄の料理も学び、多くのショーを見て、本場の三線を学ぶことができました。一番誇りに思うことは沖縄にもう一人のお父さんお母さんができたことです。将来また彼らに会いに戻ってきたいと思います。そしてその時には流暢な日本語で話したいと思います。

日本語は私の得意分野ではありません。今回の訪日活動前には日本語で話す機会はほとんどあり





ませんでしたし、日本語の重要性を認識していませんでした。しかし訪日の時期が近づくと基本的な単語や語句、少なくとも挨拶ができなければとても失礼だと感じるようになり勉強しました。日本は特に礼儀を重んじる国です。日本に足を踏み入れ、誰もが私と違った言葉話しているのは、はじめはとても恐ろしかったです。私の第一外国語は英語で、日本語ではありません。多くの言葉の意味が全くわかりませんでした。数日経ち次第に慣れてくると、簡単な単語を話すようになりました。まだまだ簡単なことしか言えませんが、英語も用いることで、日本人と会話することができました。今回沖縄から戻ってきて第二外国語の重要性を認識しました。中国語と英語だけでは生活できない、英語と中国語が通じない国もあるのだと感じました。

今回のような訪日交流活動に参加でき、交流協会がこのようなチャンスをくれたことに感謝します。S<sub>1</sub>先生がずっと気に掛けてくれたことがとても嬉しかったです。ずっと冗談を言っていました。その冗談の中でも私たちにいろんなことを教えてくれました。彼の行動が私たちの出発点になりました。そしてYさん、Sさん、Tさん。Yさんは沖縄ですべて私たちの通訳をしてくれました。通訳は決して簡単なことではありません。この数日間彼女がいたからこそ私たちは大小様々な



話をちゃんと聞き取ることができました。恐らく学長の講話の時間が一番苦労したのだと思います。校長は時々とても長く話してからようやく通訳させていました。Sさん、Tさん、L先生も毎日私たちの生活を気にかけてくれました。そしてずっとバスを運転してくれたおじさんにも感謝したいです。最後にこの数日間ずっと一緒に寝て、ご飯を食べて、話しをした友達、彼らのおかげで孤独感はなく、今回の交流で多くの異なる学校の友達ことができました。また同じメンバー、同じ先生で日本を訪れたいと願っています。今回私はいっぱい思い出とともに台湾へ帰りました。この思い出は一生忘れることはできません。

## 日本報告書

花蓮高級商業職業學校3年

劉黃思家



こんにちは。私は花蓮商業高校応用外国語三年生の劉黃思家です。日本に関して私が一番興味があるのは日本と台湾の言語の違いです。他にも文化の違い、歴史の方向性、経済の差異、衛生習慣、生活態度等がどのように異なるかにも興味があります。



まず、今回みんなに同行してくれたS<sub>1</sub>先生、L先生、Sさん、Tさん、Yさんに感謝します。そして最も重要なのは私たちの運転手さんです。本当に8日間の面倒を見てくれてありがとうございました。



した。

私が一番印象深かったのは戦争の記憶に関して学んだ時に感じた悲哀です。どの写真を見ても映画のような作られたものではなく、本当に発生したことであり、私たちの平穏な生活がどんなに幸せなことなのかを知りました。戦争の遺留品を見たとき、頭の中で想像が膨らみました。これらの戦争の中で自殺したり、殺されたり、爆撃で死んだり、または生き残ったり、彼らの顔に浮かぶやるせなさ、生きようとする決意、国を守ろうと何も顧みない行動、これらのことが感じられました。

戦争と呼ばれる記憶の中で、私は不屈の精神、国家防衛、犠牲、勇気の意味を知りました。恐らく多くの人がこのような感動を理解できないと思います。しかし私たちは防空壕に入った時、そこでの空気を吸い、ガイドの説明と穴に響く風の音を聞きました。当時の人々の恐れや生きようとする想いを感じることができました。当時最も危険な時に思い浮かんだのは恐らくほとんどが家族だったと思います。恐らく私も同じ状況であったらきっと家族を思い出すと思います。だから私たちはど



んな辛いことでも耐えて生きなければなりません。

今回の日程で、私はお父さんとお母さんが増えました。2泊3日で私たちは手厚いもてなしを受けました。お母さんは私たちが寒くないか心配してくれて暖房を入れてくれました。しかし私たちはとても暑く、勝手に冷房に切り替えました。最後にはお母さんに発見されました。どんな時でもお腹が空いていないかを気にかけ、食べ物を用意してくれていました。午後にはいつもおやつがありました。しかし、最も印象が深かったのは三線と早朝授業です。沖縄で三線は民俗楽器です。台湾では恐らく琵琶でしょう。教室では基本的な弾き方を勉強しました。これも1つの結果だと思います。私は音楽の才能がありませんが、三線は比較的簡単な楽器です。ですから、とても楽しかったです。台湾に1本買って帰ろうかと思いました。





他に私たちはお父さん、お母さんと一緒に早朝授業へ行きました。私たちも早起きしました。多分午前3時ごろだと思います。私たちは椅子に座って、今にも寝てしまいそうでした。もっと恥ずかしかったことはみんなのお腹がゲージとなりやまなかったことです。そこではとても歓迎されました。お父さんは人に会うと「彼らは台湾から来た学生で、選ばれてここへやってきたんだ」と話していました。私たちのことを誇りに感じてくれているようでした。別れの時にお父さんは「台湾に帰っても頑張れよ」と言ってくれました。私たちは涙で泣き崩れていました。その時私は「お父さんの家にずっと留まりたい」と心の中で思いました。今考えると笑えてきます。

台湾で私は刺身を食べません。嫌いな食べ物だと言っていいかもしれません。しかし沖縄で刺身は免れません。今回初めて刺身はそんなに不味くはないことを知りました。口に入れるとまるで溶けるようです。沖縄で一番好きな食べ物は「沖縄そば」です。1杯の量は多くありませんが、とても満足感があります。面白いのはカップラーメンがあることです。残念なことに、台湾では買うことはできません。今思い出してもよだれが出てくるほどです。沖縄そばの味はとても思い出深いです。もしかしたらあなたも今こっそりとよだれを飲んだんじゃないですか。



言語に隔たりはありましたが、みんな同じ地球人です。これが原因で知的好奇心が失われることはありません。中国語は私たちにとって小さいころから接してきた言語ですから、とてもよく知っています。英語はずっと学校で習ってきました。ですから全く知らないということはありません。しかし私にとって日本語は本当に一つの大きな挑戦でした。この7泊8日で仲間同士のおしゃべりと通訳以外聞こえてくるのは全て日本語です。仲間と話していても「え、今何て言った？日本語？中国語？」など、精神錯乱現象が発生してきました。言語は聞くことで進歩します。これを機会に私はもっと言語を、特に日本語を勉強したくなりました。

衛生習慣は一人一人が気をつけなければならないことです。台湾のトイレでは息を止めないと気が遠くなることありますが、沖縄ではトイレに行くのが楽しくなります。どこもとても清潔で、トイレットペーパーが溢れているようなことはありません。台湾も日本を見習って、トイレットペーパーをトイレの便器に入れるように、また入れられるようにしてほしいです。そうすればトイレットペーパーの使用量も減ると思います。他に沖縄はドリンクスタンドが少なく、というよりほとんど無いことに気付きました。台湾では数十歩歩いたら1台ありますが、沖縄は自動販売機がと







ても多いです。いつでも欲しい時に自動販売機があり、台湾とはまるで違いました。

旅行中、私は多くの友人ができました。花蓮のほぼ全部の高校の生徒がいました。私はあまり外向的な性格ではありません。しかしみんなと一緒にだと活発になりました。多分みんな信じないと思いま

す。しかしみんなといた数日間はまるで卒業旅行のようでした。ずっと前から知っている旧友のように、黙っていても分かりあえ、団体としての精神を持ち、とても楽しい雰囲気でした。台湾に戻りましたが、お互い連絡を取ることを忘れません。お金をためて一緒に旅行へ行きたいです。

この旅行で最も貴重な経験は勇気です。暗い洞窟の中で私はとても怖かったですが、自分自身に対して今行かなければきっと後で後悔すると言いつけ聞かせました。ですから奥歯を噛みしめ頑張りました。もう少しで諦めるところでした。もう少しで逃げ出すところでした。みんなと手を握り合い、結果のわからない方向へ進みました。みんなの協力が私に勇気を与えてくれました。沖縄から戻ってから、私は困難なことや辛いことがあっても、お互いがお互いの手を握り合ったことを思い出すと、私に勇気を与えてくれます。

私と一緒にいてくれたみんなに感謝します。そして沖縄で私は多くのことを学びました。みんな沖縄で充実していたと思います。これは縁だと信じています。

## 訪日の感想

花蓮女子高級中學3年

鄭宛瑜



短い17年間で私は多くの場所へ行きましたが、まさか遙か遠い海の向こう、沖縄へ行けるとは思ってもみませんでした。

私は鄭宛瑜、現在花蓮女子高校普通科3年生の学生です。日本へのあこがれの始まりは私のおじいさんです。桃太郎の昔話が私をこの神秘的で美しい国へ引き込みました。日本人の日常生活が私たちとどのように違うのかとても興味あります。どのような考え方をしているのか？日本の伝統文化と私たちはどのような関係があるのか？これらのことが私を深く魅了しました。しかし一般の教育制度では私は本当の日本を理解することはできません。今回交流協会の訪日活動によって私の願いは成就されました。

8日間はとても短かったですが、記憶の深さは過去の年月よりもさらに深いものとなりました。私は空港で「歓迎台湾高校生」と書かれた横断幕を見た時から既に感動していました。今後の日程で感動の涙と愉快的笑顔、どちらが多いのか私に

もまだわかりません。私は最初、言語は交流に於いて最大の障害だと考えていました。しかし勇気をもって話しかけるとこんなにも簡単なものなんだと気付きました。沖縄の人たちは笑顔で迎えてくれて、そして頑張って英語で話そうとしてくれました。彼らは言語の隔たりで自分を恥じたりしていませんでした。私たちが高校で交流をした時、幸運にも日本の学生美術の授業を受けました。私たちは自分の興味を話し、多くの同じ趣味を持っていることを知りました。国を越えた友情はこんなにも簡単に築くことができるのですね。言語が通じないなんて関係ありません。私たちは大きな白い紙を広げて、私がピカチューを書けば、日本学生がちびまるこちゃんを書き、お互いの絵を見あって笑ったりしました。日本人・台湾人、何も違いませんでした。

沖縄に足を踏み入れたその瞬間から、私はずっと周りの風景を楽しんでいました。整って清潔な道路から住民の道徳的観念を感じることができます。マンションの建築方式も私たちとは異なっていて、階段が中央にありドアで覆われてもいません。台湾であれば建物の中に隠れた状態になっています。多くのものを見ましたが、一番印象に残っているのは自動販売機です。数がとても多く、四方八方どこにでもあります。売っている内容も様々で、初めてアイスクリームの自動販売機を見た時はとても不思議でした。いつか台湾にも置いてほしいと思います。

日本人に対する印象はやはり礼儀です。早朝、ホテルのエレベーターに乗ると、全く知らない人が私に「おはようございます」と挨拶をしてくれました。知らない宿泊客が私に挨拶をするという経験にとっても驚きました。台湾でそんなことが行われればとても奇妙に感じます。現在都市部の人はとても冷たくなつたと感じます。知らない人に挨拶されると、奇妙な視線で見られるかもしれません。しかし沖縄では私の想像を越えて私の理想

に近く、私も台湾人の考え方を捨て、リラックスした気持ちでこの温かな世界へと入ろうと思いました。

交流協会が手配してくれた日程で沖縄戦は重要な位置を占めています。名桜大学の学長がゆっくりと自分が体験した悲惨な経験を話し始めると、心が締め付けられるようでした。学生時代に学校教育を受けることができず、毎日戦争の恐怖と苦痛の中で生活をしていました。そして家族と会うこともできない人もいたといいます。私はそのような生活は想像すらできません。現在私は高校生ですが、同年代で家族に遺書を書かなければいけない気持ちは想像するだけでも怖くなります。私たちは姫百合資料館でちょうど当時経験されたおばあちゃんと会うことができました。彼女は詰まりながら、でもきっぱりと当時の学生の奮闘をみんなに伝えなければいけない、とおっしゃっていました。最後に何度も自分が生き残ったことを犠牲になった同級生たちに謝っていました。「私は生き残ってしまった、本当にごめんなさい」と。全く不公平です。間違いを犯していない人間が自分の生存のためになぜ謝罪しなければいけないのでしょうか。

沖縄戦体験で最も印象が深かったのは轟の壕へ行った日です。陰湿な洞窟で細く狭いため入っていくのにも苦労しました。一刻も早く外に出たいと感じました。しかし当時の沖縄県民はこのような条件下で何カ月も過ごしていたり、また傷を治していたりしました。私は中に入る時に周りを観察しましたが、人が静養できる平坦な場所なんて全くありませんでした。当時の人の過酷な状況を知ることができました。最も奥へ行くとガイドさんが私たちに懐中電灯を消すように言いました。1分の間、私たちは当時の人が生活していた暗さを体験しました。自分の手すら見えない暗黒の状況で私は資料館の壁に掛っていた当時の住民の話を思い出しました。「私は太陽の下で手を振りお

父さん・お母さんと叫びたい」というものでした。資料館で見た時にも悲しくなりましたが、現在真っ暗な中で私はより一層心が締め付けられる思いがしました。太陽の下で手を振り、お父さん・お母さんに「ってきます」と言える、こんなにも平凡なことが彼らの中ではとても贅沢な望みだったのです。

私は今までいつも学校や自分の生活に不満を持っていました。今思えばとても身勝手だったと感じます。戦争は住民に永遠の悲劇、痛みしかもたらしません。本当の受益者は高みの見物をしている幹部だけです。こんな不公平があっているのでしょうか。しかし多くの戦争を経験し、自分が高い地位にいると感じている人は存在します。「歴史的教訓は歴史の中からは学べない」。しかし今回の旅行でこのような悪循環の輪を断ち切るために、この戦争から平和の重要性を認識し、現在ある幸せの貴重さを理解しました。

沖縄戦以外に、民泊体験はとても印象深い体験になりました。日本の家に泊まることに最初は不安と期待がありましたが、私がお世話になった家庭はみんなとても温かく迎えてくれました。ずっと私たちのことを気にかけてくれました。しかし一番感謝したいのは、私たちが外国人であるからといって英語で話すのではなく、本当に意思が通じない時だけ少し使う程度だったことです。たった2日間ですが、全て日本語という最高の環境を体験することができました。これにより、私の日本語能力は大きく向上しました。お父さんは私たちに多くの活動を用意してくれていました。沖縄伝統菓子サーターアンダギー作りでは、作り方は簡単ですが、食べると意外な感動がありました。また沖縄の海にも連れて行ってくれました。ずっと海と山に近い花蓮に住んでいる私ですが、海を見に行く機会はほとんどありません。多くが学校で過ごしているため、冷たく気持ちいい海水に足を入れ、塩気を含む海風に迎えられると、とても懐

かしい気分になります。その後お父さんと一緒に砂浜に座り、簡単な日本語でおしゃべりしました。意外にも私の日本語能力は本当に進歩していました。お父さんはこれからもずっと勉強していくように、と励ましてくれました。短い言葉ですが深く私の心に刻み込まれました。

民泊期間中、私たちは沖縄の伝統的な踊りを見に行きました。力強い太鼓の音が耳元で廻っています。それに独特な掛け声と歌声、三線の音が合わさり、心奪われる音楽を織りなしています。太鼓の音に感動して目を濡らし、力強い太鼓の音で精神が高ぶったのは初めての経験でした。まるで人生すべてが明るくなったように感じました。

夜の三線の授業はとても思い出深い体験でした。弦楽器の指の使い方にはそんなに大きな違いはないので、ギターを弾ける人はすぐ上手になりました。ただし先生やお父さんのように三線を弾きながら歌を歌うのは、初心者の私たちにとってはまだまだ遠い道のりです。弾いているとまるで自分が沖縄人になったように感じました。2日の宿泊で一番驚かされたのは早朝に行われる家庭倫理集会です。朝5時過ぎ、お父さんとお母さんは私たちを連れて集会へ向かいました。台湾人の気楽な集会とは全く異なり、ホワイトボードに今日の集会の流れを書き、主席が傍らで鈴を鳴らして意見を述べます。日本の規則正しい性格を垣間見た気がしました。私たちの到着によって多くの集会参加者が私たちと台湾の話をしました。その中でもおじいさん・おばあさんに私のおじいさんの話やなぜ日本に来たか等を話しました。無意識のうちに私は完全にこの温かな桃源郷に溶け込んでしまいました。

今回の旅行は私の人生観に大きな変化を与えました。日本をより理解できただけでなく、人に感謝すること、人を気遣うことを学びました。私は既に思い出がいっぱいの島を懐かしく思うようになっています。交流協会が今回の訪日団を企画し



てくれたことに感謝します。私は今回の機会を経て、私の大好きな国がより身近に感じることができるようになりました。

## はいさい！沖繩！

国立玉里高級中學 3年  
吳菘



私は花蓮という田舎の学生です。まさかこんな時期に日本へ旅行できるなんて思ってもみませんでした。このような機会を得られたことはとても光栄に感じます。私は日本の先進的な点をととても羨ましく思っていました。また伝統や現代文化を重視する態度、感情のこもった言語にととても興味がありました。ですから私にとって日本はずっと旅行に行きたかった国なのです。今回の機会を経て、自分の目で本当の日本を見たいと思います。全ては同級生の何気ない一言で私の訪日活動は始まりました。学校の締め切り日によりやく申請書を書き上げ、がむしゃら受けた面接に通りました。花蓮から桃園まで長時間の列車の旅を経て、ようやく CH21 のフライトに乗りました。およそ1時間の飛行で夢にまで見た日本・太陽の光に溢れ、海と活気のある町沖繩に到着しました。

私たち花蓮高校生訪日団の行程はとても豊富なものでした。沖縄県庁訪問、真和志高校と名桜大学での交流、首里城・美ら海水族館・琉球ガラス村・今帰仁城跡・平和祈念資料館・健児の塔・魂魄の塔・姫百合の塔・轟の壕の見学、ぬちしぬじガマ探検ツアー、それに2泊3日の民泊体験と国際通りでの自由行動、本当に様々で、笑いあり涙ありの行程は今でも忘れられません。

旅行終了後、私は日本人の礼儀正しさに感嘆せざるを得ませんでした。私たちが沖縄県庁を訪問



しましたが、これは日本人が重視している礼節の1つだと言われました。そして、私ともう1名の女子生徒が代表として選ばれ、幹部への表敬訪問という一種儀式のような行為を自ら体験できました。この時私は強烈なカルチャーショックを覚えました。彼らは初めて会う人とは必ず名刺交換をしますが、私たちが学生だからといって、名刺交換しないということはありません。ホテルのスタッフもとても親切で、初日私たちが国際電話の問題で長い間彼らに質問をしていましたが、彼らはとても熱心で親切に教えてくれました。表情には笑みを浮かべていたので、私たちは下手な日本語で話しかける勇気を持つことができました。他の商店でも同じです。スタッフは「いらっしゃいませ」と大声で話し、台湾の店員のようにずっと何が必要かを尋ねたり、彼らの商品を勧めてきたりすることはありません。日本は街を歩いているのもとても自由で心地よかったです。歩行者は全く知らない人ですが、目でコンタクトを取ったり、軽くお辞儀したりしました。台湾人であれば、ずっと見つめていても、一方が目をそらしたりします。また自由行動の時に私は道に迷ったので、歩いている人に道を尋ねると、親切に道案内してくれただけでなく、私たちが目的地に連れて行ってくれました。台湾では全く見かけない光景です。

私たちが真和志高校へ着いた時工事をしていました。しかし緑が生い茂った植物を目にすることができ、私たちの学校に似ていると感じました。残念だったのは真和志高校は唯一制服がない学校だったということです。私はとても日本の制服が好きなのです。その後体育館に移動するととても驚きました。体育館では靴を脱がなければなりません。バスケットボールをする時も靴を脱ぐそうです。靴を履かないで足は痛くならないのでしょうか？高校生交流はとても素晴らしかったです。時間は長くありませんでしたが、みんなで大きな一枚の紙に自分の好きな絵を描きました。本当に楽しかったです。そして彼らの絵の上手さには本当に感心しました。みんなが漫画家や画家になれるのではないかと思うほどでした。羨ましいと感じたのは学校が学生に多くの選択肢を与えている点です。部活動の時間では協調性が養え、学生はとても健全です。台湾が見習わなければならない点です。



首里城と今帰仁城に到着した時、時間はとても短かったですが、琉球王国の輝かしい歴史を理解することができました。当時世界で唯一軍隊や武器を持たず、貿易が発展しており、人々も豊かだった国家です。名桜大学瀬名波学長の講話はとてもすばらしかったです。ご自身が経験した鉄血勤皇

隊の様子を私たちに話してくれて、戦争の恐ろしさ、生命の尊さを伝えてくれました。平和・自由・進歩が名桜大学の教育理念です。沖縄だけでなく、日本、そして世界全てがこの素晴らしい道を辿って欲しいと思います。私たちは平和祈念資料館で戦争で犠牲になった人たちの写真を見ました。戦争で生き残った人へのインタビューや国籍に関係なく犠牲者の名前が刻まれている碑を見た時、悲しくなりました。その後健児の塔、姫百合の塔、魂魄の塔、轟の壕へ行った時にはとても悲痛な思いがしました。過去にここ一帯は血の海になっていたことを考えると背筋がぞっとします。目を閉じて犠牲者に哀悼の意を示している時、脳には悲惨で醜い戦争の場面が思い浮かびました。私は戦争が二度と起こらないように祈りました。



2日間各民家で民泊体験を行いました。私はS家にお世話になりました。Sさんと奥さんはとても親切で、言葉上ではあまり流暢にコミュニケーションがとれませんでした。みんな下手な日本語で会話しました。メインの話題は日台文化差異についてです。彼らは初めて外国人を受け入れたそうで、とても新鮮だったらしく、よく私たちに中国語を教えて欲しいと言っていました。私たちと彼らは言葉はあまり通じませんでした。心は通じ合っていました。そして夜に台湾のトランプ

ゲーム「心臓病」と「十点半」で遊んだことは一生忘れられません。とても盛り上がり、お父さんは服を脱ぎました。そしてお孫さんは私たちに手品を見せてくれました。翌朝私たちは農業体験ということで、畑で農作業を行いました。まず豆を収穫しました。お父さんは私たちに、豆を選ぶのはとても慎重に行わなければならない、と説明しました。少しでも曲がっていると商品として売れないそうです。その後紅イモ掘りをしたときに、うっかり鋤で紅イモを傷つけてしまいました。多くの紅イモが売れることも食べることもできなくなり、今思えばとても申し訳なく思います。お父さん・お母さんはとても気を使ってくれて、午後にはいろんな場所へ遊びに連れて行ってくれました。エイサーや三線を体験させてくれたり、帰宅後は沖縄伝統菓子サータアンダギーの作り方を教えてくれました。作り方はとても簡単だったので、帰国後私自身も作ってみようと思います。今回の民泊体験を通して、私はより沖縄の文化と生活を理解することができました。一般の観光客では全く見学できないことを見ることができて、本当に収穫が多かったです。

沖縄の道を歩いているといつでも特別な感覚になります。第一に今まで思い描いていた日本の建築様式と異なることです。多くが沖縄の瓦を使った伝統的な家です。第二にどこで小さな可愛い車を見かけることです。そして500mも行かない内に自動販売機があることです。人が少ない農道にすら設置されています。そして道がとても綺麗で整頓された感覚を受けました。台湾で良く見る違法建築やトタン建築、街中に溢れるゴミなどはほとんど見ませんでした。沖縄はとても企画されている街で、道にはゴミ箱すら全くなく、「ゴミは家に持ち帰ろう」という標語がかかっていました。そのためかゴミは紙くず一つ見ませんでした。しかし沖縄の物価はとても高いです。多くが台湾の1.5倍から2倍程度します。しかし同じものを

台湾で買うよりも、日本で買ったほうが何だか高級な感じがします。恐らく「隣の花は赤い」というやつだと思います。沖縄のグルメに関して言えば、個人的にゴーヤチャンプルーとアメリカ風のタコライスは大好きになりました。どちらも現地ではよく見かける料理ですが、とても幸福な気持ちになります。また飲食に関して多くの点で台湾とよく似ています。台湾の角煮、豚足、豚の顔の皮や耳、それにサータアンダギーは台湾の伝統的な味にとっても似ています。ですから沖縄での食事はとても身近な感覚で、全く食べられないという問題はありませんでした。

日本を離れる時、とても名残惜しい気がしました。那覇国際空港で飛行機が3時間遅れたこと、台湾到着後バスで桃園から花蓮までカラオケしていたことなど、一生忘れられない思い出です。もちろん日本でみんなで一緒だった時間は言うまでもありません。この旅行で私は多くのことを学びました。特に沖縄という土地は日本と沖縄のどちらの文化も接することができました。その他台湾と比較して礼儀だけでなく、衛生習慣や科学技術等々私たちが学ぶべき多くのことが分かりました。台湾の隣国の島国として、私たちは日本認識の第一歩を踏み出しました。そして今後より深く日本を知り、本当の交流を達成させたいと思います。それまでに私は日本語と日本の全てを勉強し、私の大好きな両国のために、将来日台関係に係る仕事に就きたいと思います。

最後に交流協会が私にこのような意義深い教育旅行を与えてくれたことに感謝します。そしてずっと同行してくれたTさん、Sさん、Yさん、S<sub>1</sub>先生、L先生、運転手さん、忙しい合間を縫って来てくれたK部長、そして訪日団の仲間たち、本当にありがとうございました。

みんながいなかったら、この訪日団は私が知っている「花蓮高校生訪日研修交流団」ではなかったと思います。



## 花蓮高校生訪日団感想

私立海星高級中學 3年  
林靚軒



今回私は日本の最南端沖縄を訪問しました。これはとても貴重な機会でした。今まで海外に行ったことがなく、また日本という国に対して強い信頼と帰属感を持っている私にとって、感激の気持ちでいっぱいです。日本の国土を踏み、留学、または仕事、引いては定住することが私の人生で最大の夢です。ですからこの機会を利用して、日本をより身近に感じる一歩としたいと思っています。

出発当日、今まで乗ったことのない乗り物にたくさん乗りました。台湾新幹線・飛行機・運転席が右にある車やバス等々、とても新鮮な体験でした。しかし飛行機が那覇へ飛び立つ前、空港では数々の難所をクリアしなければなりません。他のメンバーと私は身分が違って、入隊適合年齢の私は必要書類を揃えないと出国できません。それを通過しても、私の服装のせいなのかわかりませんが、靴やコートを脱いで金属探知機に入りました。飛行機に乗ることがこんなにも大変だとは思ってもみませんでした。搭乗口に着き、一緒に旅行する仲間に出るととても楽しい気持ちになりました。とても楽しい気分で行くことができました。

那覇空港到着後、既に日は傾いていました。入国は台湾の時ほど厳しくはありませんでした。しかし最初にしなければならないのは点呼して誰がいないかを確認することではなく、写真を撮ることです。道に設置してある自動販売機ですら私たちのカメラに何度も収まりました。後で考えてみると私たちのこれらの行動はとても可愛く、また



可笑しく感じます。ホテルは台湾とそんなに変わりませんでした。一瞬たりともゆっくりとしている時間はありませんでした。荷物を部屋に置くと、すぐに夕食会場へ行きました。そこでは主催団体の随行員を紹介されました。紹介が終わり、夕食も食べ終わると自由時間です。私は和服を着た女性を見つけてとても嬉しくなりました。もともと沖縄は本州とは違った伝統文化を持っていると思っていました。とても貴重な機会だったので、もちろん彼女たちに写真を撮って欲しいとお願いしたところ、とてもあっさりとしてくれました。沖縄の人は本当に親切でやさしいです。写真を撮り終わるとホテル内を歩き回り、気がつくと11時近くになっていました。初めて来る日本なので、気持ちが高ぶって押さえられないので、早く寝ることなんてできませんでした。全く違った学校から来た仲間たちがここではまるでクラスメートとの卒業旅行のように、全く見知らぬ関係を超えて、とても親しい雰囲気になりました。

二日目、三日目の行程は説明会の時に概略は聞いていました。午前中は沖縄県庁を訪問し、数名の県職員の人との交流。訪問させてもらっているのだから、当然その長に挨拶をせねばなりません。この世界、どの国でも誰でも必要な素養と礼儀です。その後真和志高校と名桜大学を訪問しました。この高校は他の高校と違い、沖縄県で唯一制

服のない高校でした。規定の制服がない公立高校というのは台湾の学生はずっと夢に見ていることではないでしょうか。ここで、私たちは先生のいない美術の授業を受けました。気の良い高校生たちが私たちに誘ってくれて一緒に絵を描きました。その後とても有り難いことに真和志高校の学生はいくつかのショーを披露してくれました。とても印象に残っているのは伝統的な和服を着て、扇子を持った踊りでした。それを男子学生が踊っているの、交流に来た私たちはとても新鮮でしたし、とても奇妙にも感じました。3日目に訪れた大学は歓迎の雰囲気はありませんでした。簡単な自己紹介の後、自ら沖縄戦を経験した学長が第二次世界大戦中沖縄の住民がどのような悲惨な日々を送ったのかを語ってくれました。当時私たちと同年齢の学長は国を守るという信念の下、戦場へ赴く決断をしました。共に闘った戦友は傷つき亡くなっていきました。生き残った勇敢な戦士たちは学長以外には数えるほどしかいません。この血と涙の歴史は沖縄島民の悲痛な想いだけでなく、戦争が全世界の人たちが望まないことだと伝えてあります。この話を聞いて、私は戦争で亡くなった人たちに哀悼の意を捧げずにはられませんでした。学長の講話が終了し、昼食時間になると、私は大学4年生の学生と一緒に席になりました。目の前に座るお姉さんはとても日本の芸能人・堀北真紀にそっくりです。同じ机に座った団員もみんなそう言っていました。昼食中はとても楽しくおしゃべりしました。お互いがメールアドレスを交換し、記念撮影をしました。しかし時間が経つのは速く、あまり多くのことを話せないうちに、名桜大学を去らなければなりませんでした。もし再度沖縄に来ることがあれば、私はきっとこの「親友」を訪ねたいと思います。

各界の方にお会いするだけでなく、私たちは当地の名所旧跡を訪れました。世界遺産の首里城では熱心なガイドが沖縄の変革を話してくれまし

た。独立した政権を持っていた琉球王国は沖縄県として明治政府の管轄下に置かれました。とても詳しく私たちに沖縄というとても素晴らしく美しい街の歴史を教えてくださいました。首里城以外に、私たちは沖縄北部の今帰仁城を訪れました。保存されている城郭や石垣から当時の繁栄が簡単に想像できました。

沖縄旅行で私が一番期待していたのが民泊体験です。たった2日間でしたが、とてもいい経験になりました。3日目の行程が終了すると、交流協会は私たちと民泊家庭の歓迎会を催してくれました。最初は期待と不安でいっぱいでした。食事の時もあまり話が盛り上がりません。その時初めて私の日本語のレベルを知りました。しかし会話を交わしていくうちにお母さんはとても優しい人だとわかりました。ゆっくりと緊張した雰囲気に笑い声が現れはじめました。お母さんは私たちをまるで孫のように接してくれました。そして私たちもおばあちゃんに甘える孫のように彼女の周りを囲みました。本当は家におじいちゃんがいるのだけれど、体が悪く入院していると話してくれました。それを聞いて私たちはおじいちゃんのお見舞に行こうと決めました。おばあちゃんは心配ないと言いましたが、おじいちゃんに会って私たちの到着を伝えようと考えたのです。これもとても奇妙な体験でした。夕食後最初に訪れたのは民泊先ではなく病院でした。ベッドに横たわっているおじいちゃんは元気な声で私たちに挨拶してくれましたので、とても安心できました。その後期待していた民泊先に到着しました。おばあちゃんは私たちにお菓子を準備してくれました。しかし一番嬉しかったのは、おばあちゃんは今回の活動のために簡単な中国語会話を準備してくれていたことです。会話が困難な時に使おうとしていたそうです。もともと私はこういうホームステイが一番の問題は言語だと考えていました。しかし話しをしていくうちに、私たちは伝えたいことはとても

スムーズに伝えられることがわかりました。家には2人の小学生の女の子がいました。そのうちの一人は今回のために中国語を勉強してくれていて、簡単な中国語で自己紹介をしてくれたので、とても驚きました。もちろん私たちも誠意を見せるために、日本語ができないとは言えず、おばあちゃんに本を1冊借りて朗読して見せました。文章の中には難しい漢字があり、読んでもあまり理解できなかつたり、読み間違いもあったと思いますが、優しい女の子はずっと私の傍で発音を正してくれたり、まるで家族のように接してくれました。周囲の和気藹藹な雰囲気、私は多くの日本語を学びました。言語の問題は簡単に克服できました。就寝の時、畳の上で寝るといのは不思議な感覚でした。ようやく日本というずっと憧れていた国にいるのだと、実感がわいてきました。

翌朝7時、窓ガラスには水滴が付いていました。拭いてみると外には鳩が縁側でおばあちゃんの撒いたパン屑をつついていました。雀の鳴き声も聞こえます。そんな心地よい環境の中で目が覚めました。朝の挨拶をした時、おばあちゃんはちょうど朝食の準備をしていました。私たちは急いで和室の布団を片付け、おばあちゃんが作った温かい朝食を和室に運びました。この数日間の食事は私たちは日本の食事作法に習って食事をしました。



例えば食事前に「いただきます」、食後に「ごちそうさまでした」と言うなどの作法です。これらは日本人にとってみれば当たり前の習慣ですが、私たちにとってはとても嬉しいことの1つです。最初日程表を見たときに「観葉植物の管理」と書いてあり、仕事の内容が良く分かりませんでした。おばあちゃんは私たちを家の後ろにある小さな植物園に連れて行って説明してくれました。所謂観葉植物とは葉の形状や色を楽しむ目的で栽培された植物で、多くは室内や庭に置いてインテリアとして利用されます。植物は葉が開かないように枝の部分を新聞紙で包みます。それが私たちの仕事でした。ほとんどの商品は既に仲介業者の手に渡っていたので、もうほとんど残っていませんでした。私たちの仕事は想像ほど複雑ではなく、仕事をしていても冗談を言い合ったり笑ったりしていました。午後はおばあちゃんが近所の海辺へ連れて行って「グラスボート」と呼ばれる船に乗りました。船の外側は一般的な船と何の変りもないのですが、船の底がガラスになっており、海底の様子がとてもよく見えるようになっています。沖縄の海は綺麗で透き通って見えました。50mの深さまで見えるそうです。透明度はとても高く、台湾では決して見ることができない景色です。二日目、おばあちゃんは沖縄の名勝地「玉泉洞」に連れて行ってくれました。名前だけ聞くと桃源郷のような場所を思い浮かべましたが、実際訪れてみると、そこはただの名勝地ではなく、まるで詩や絵画に出てくるかのような鍾乳洞でした。そこは「幽咽泉流水下灘（幽咽する泉流水灘を下る）」という詩のような景色が広がっていました。しかし、その後の別れがこんなにも辛いものだとは思いませんでした。おばあちゃんがバスを追いかけて手を振る姿はとても感動して目が赤くなりました。決して忘れることがない思い出です。私たちにこんなにも楽しい時間を与えてくれて、本当にありがとうございました。最後の1日は国際



通りへ行きました。その日は気分的にもとてもリラックスできた一日であり、仲間たちとお互いの気持ちを話しあえた1日でもあります。ショッピングは無くてはならない行程ですが、お金で買える物はこの数日で味わった喜怒哀楽に遠く及びません。気心の知れた友人たちと沖縄の街を歩き、笑い、遊んだことはとても幸せでした。一生で何度もこのような機会はありません。たった数日ですが、まるで何年も知っている旧友のようでした。私自身も長い間こんなにも自分を他人にさらけ出したことはありませんでした。

8日間の沖縄旅行では、教科書では習えない多くの知識を学ぶことができました。例えば人のもてなし方、戦時中の沖縄島民の声等多くのことが

初めてでした。主催団体の交流協会には本当に感謝します。このような貴重な機会を得て沖縄に訪問できたこと、また知的で趣向に富んだ日程、私は全く異なった文化精神と態度を学ぶことができました。同行してくれたSさん、Tさん、通訳のYさん、本当にありがとうございました。旅行期間中私たちは迷惑をかけました。しかし全く不平をもらさず一つ一つ私たちの疑問を解決してくれました。温かなガイドと指導にとっても感謝しています。最後に17名の仲間たち、彼らは私の言動やその他諸々のミスを気に掛けず受け入れてくれました。最後に全ての人に感謝したいと思います。みんながいてくれたから、沖縄旅行はこんなにも素晴らしいものになりました。

## COMPUTEX Taipei 2011 レポート

台北市コンピュータ協会 駐日代表 吉村 章

アジア最大の規模を持つ COMPUTEX TAIPEI は今年（2011 年）で 31 周年を迎えた。国内イベントとしてのコンピュータショーとして始まった COMPUTEX であるが、1990 年代に入ると台湾が世界のパソコン工場として注目を集めるようになり、COMPUTEX も海外バイヤー向けのトレードショーに変貌を遂げていった。新製品の発表の場であり、世界中から集まるバイヤーの購買の場であり、台湾製品輸出のショーケースとしての役割を担い、台湾と世界市場をつなぐパイプ役として、ICT 産業発展の舵取りを続けてきた。

今年の COMPUTEX TAIPEI 2011 の会期は 5 月 31 日（火）～6 月 4 日（土）までの 5 日間。台北に世界貿易センターの第一ホール、第二ホール、第三ホール、台北国際会議センター、さらに南港会場を加えて 5 つの会場で盛大に開催された。今年にはインターネットソリューション（IoT）関連の第二ホールに展示が新たに加わり、より多くの



南港ホールのブース風景。今年から台北駅と南港ホールを直接結ぶ MRT が開通し、交通の便が格段によくなった。

出展メーカーを受け入れ、展示規模を拡大している。出展企業 1,800 社、出展規模は 5,300 小間（前年比 9 パーセントの伸び）の規模で開催された。5 日間の来場者総数は 12 万人。うち外国人バイヤーの登録者数は 3 万 6,102 人。

COMPUTEX への出展は基本的に台湾企業が優先である。COMPUTEX とは台湾製品を世界に売り込むための国策的な展示会であり、オープニングには今年も馬英九総統自らが駆けつけた。出展企業は Acer（宏碁）、ASUS（華碩）、Gigabyte（技嘉）、Mitac（神達）、Microstar（微星）など国内大手 IT ベンダーをはじめ、中堅中小から小規模なベンチャー企業まで、各社とも COMPUTEX を最も重要な「製品発表の場」と位置づけている。輸出先での市場開拓が生き残りの道である台湾企業にとって、「COMPUTEX にブースを確保すること」が企業の死活問題となる。

一方、ここ数年は海外からの出展も増えている。AMD、日立、インテル、マイクロソフトなど常連メンバーである海外大手ベンダーに加えて、南港

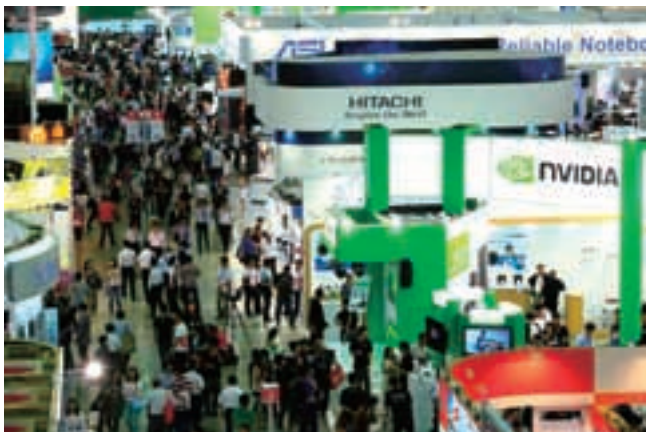


COMPUTEX TAIPEI 2011 の会期は 5 月 31 日（火）～6 月 4 日（土）までの 5 日間。台北に世界貿易センター（信義地区 4 会場）、南港ホールの 5 つの会場で開催。（写真は信義地区第 1 ホール）





出展企業 1,800 社、出展規模は 5,300 小間（前年比 9 パーセントの伸び）の規模で開催。写真は南港ホールの Acer（宏碁）、ASUS（華碩）、Gigabyte（技嘉）など大手ベンダーが出展するエリア



南港ホールには日系や中国メーカーも出展。ここ数年中国人来場者の数が激増している。

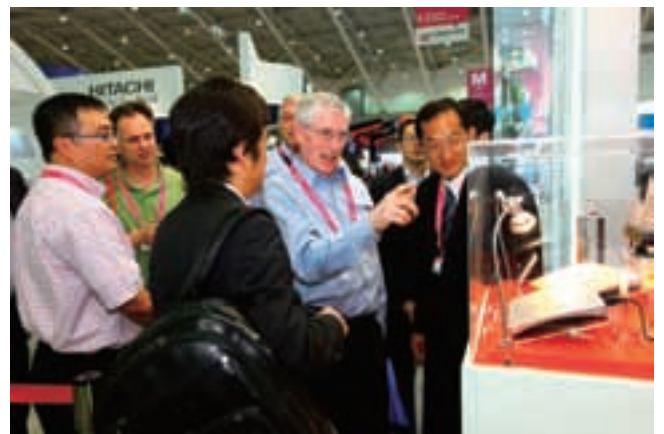
ホールの運用開始とともに中小の IT ベンダーの出展も可能になった。現在では 28 の国と地域からおよそ 500 社の外国企業が 1000 小間の規模で出展。そのなかには海信、惠科、同洲、普聯、萬利といった中国企業も含まれ、昨年から南港ホールには特設コーナーとして「兩岸エリア」が設置され、中国からの出展も積極的に受け入れるようになった。

今年の COMPUTEX TAIPEI では、スマートハンドヘルドデバイス、クラウド・コンピューティング、IoT（インターネットソリューション）などの分野が注目を集めた。特にタブレット PC、スマートフォン、電子ブックリーダー、アンドロイ

ド、3D テクノロジーなどが注目製品。昨年から出展エリアが新設されているクラウド・コンピューティングに加え、今年はエンベディッド・テクノロジー（組込製品）や IoT（インターネットソリューション）の展示エリアが新たに設置され、従来のハードウェアの展示会からソフトウェアへ、さらにアプリケーション関連の出展が目立つようになった。



会期中の来場者総数はおおよそ 12 万人。うち外国人バイヤー登録数は 3 万 6102 人（2011 年実績）だった。



COMPUTEX とは台湾製品を世界に売り込むための国策的な展示会。主催者は来場者総数より外国人バイヤー登録数を重視する。

主催者の発表によると会期中に行われる商談はおおよそ 250 億米ドル規模。COMPUTEX には製品の買い付けを目的としたバイヤーが世界中から集まる。単なる情報収集ではなく、実際に製品の買い付けの場であること、つまりトレードショーであることが COMPUTEX の大きな特徴だ。外



国人バイヤー登録は3万6,102人。これだけの外国人バイヤーを集めて開催される展示会はアジアでは他に例がなく、もちろん日本国内にもない。COMPUTEXは買い付け、真剣勝負で商談が行われる場であり、IT製品のトレンドを占う世界中の国々が最も注目する国際的なイベントのひとつと言っても過言ではない。



3万6千人を超える外国人が集まる展示会は日本にはない。日本の展示会と違い外国人バイヤー重視であること、トレードショーであることがCOMPUTEXの特徴



トレードショーとはまた「製品買い付け」を目的にバイヤーが集める展示会であること。その年のクリスマス商戦で商材を探すために世界中からバイヤーが集まる

主催者企画である「マンツーマンマッチング」(調達商談会)では、1億米ドル以上の商談を創出。昨年のこの商談会ではおよそ2億2,000万米ドルの商談が生まれ、バイヤーとベンダーの絶好の出会いの場として高い評価を得ている。会期中に

1,000件以上の商談をアレンジし、その中には米 Best Buy、仏 PIXMANIA、日 SONY、独 ALCATEL-LUCENT、中国の四川長虹佳華など海外の大手企業バイヤーも含まれる。買い付け側と売り込み側がネットによる事前のエントリーで、商談会の席上は広い会場にたくさんの売り手と買い手が集まり、スピーディにフレキシブルに活気溢れる商談が繰り返される。このような様子を見て驚く日本人も少なくない。COMPUTEXがトレードショーであることを実感する光景だ。



会期中、主催者は商談用の特設会場を設けて商談会を実施。主催者はメーカーとバイヤーのマッチングのサポートも行う。商談会はサンプルチェック、価格交渉、契約を行う真剣勝負の場。



主催者の発表によると会期中の商談実績はおよそ250億米ドル。COMPUTEXとは台湾製品を世界中に輸出するための国策的な展示会である

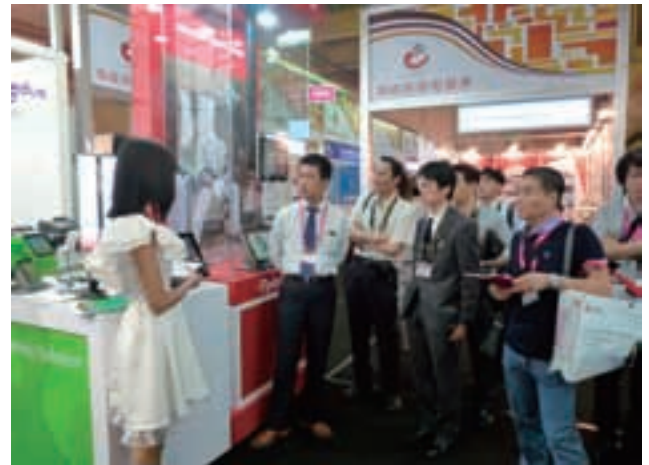


会期中にはさまざまなカンファレンス、セミナーなどが開催される。マイクロソフトやインテルなど世界中からスピーチに訪れるキーパーソンも多数

さらに、今年からは COMPUTEX の最新の展示情報が随時検索できる専用の App アプリケーションプログラムをスマートフォンへ無料でダウンロードできるトータルガイドシステムの運用が始まった。また、今年から通訳が COMPUTEX の注目製品をピックアップして見所を英語で説明する COMPUTEX 会場ナビツアーを実施。外国人バイヤー向けに新しいサービスの試みが行なわれた。



馬英九総統自らも COMPUTEX を訪れ、台湾製品 PR のためのパフォーマンス（自転車に乗っている中央）、彼は台北市長時代からほぼ毎年 COMPUTEX のオープニングセレモニーには顔を出す



今年から始まったサービスのひとつ。専門の会場ナビが会場を回って COMPUTEX の注目製品を英語で解説する。写真は会場ナビツアーに参加した日本からの視察グループ（TCA 東京事務所）



会場ナビツアー終了後の記念写真。TCA 東京事務所では COMPUTEX 視察、出展の窓口になり、会場視察や企業訪問などを実施。COMPUTEX2012 でも展示会視察を企画予定



新竹サイエンスパーク視察。現地では日本の産総研にあたる工業技術研究院（ITRI）や太陽光パネルのモジュールメーカーなどを視察





台北市の八徳路にある電腦街「光華商場」を視察。電腦街は新しいビルに生まれ変わり、昔の面影がなくなったのが残念。部品ショップが並ぶきれいな集合店舗になってしまった



COMPUTEXに出展する日本企業のエリア。欧米バイヤーへの製品売り込みだけでなく、技術やソリューションを出展する事例や台湾企業とのアライアンスを目指す出展も多くなった（詳しくはTCA東京事務所まで）

## ■ COMPUTEX2012 注目製品はタブレット PC

スマートハンドヘルドデバイスが今年のCOMPUTEXのキーワード。スマートフォンからiPadのようなタブレット、ネットブック、タブレットPCなど、境界線の線引きが難しくなりつつある。特にタブレットPCは従来のコンパチブル（Convertible）タイプからスレート（Slate）タイプの新製品が続々と発表されている。（台湾企業はタブレットPCをふたつのタイプに分類し、コンパチブルタイプ、スレートタイプと表現す

る）

コンパチブルタイプとは早期のタブレットPC（従来のモデル）を指す。ノートブックパソコンの発展形で持ち運びの機動性や手書き入力機能に重点を置き、平均価格も1500米ドルを上回っていた。使用用途は教育、金融保険、物流倉庫、医療機関、安全保障など特殊な応用領域での普及が見られたが、バッテリー駆動時間が短すぎたこと、価格帯がノートブックパソコンと同等かそれ以上で、割高感があったことなどの理由で爆発的な普及には至らなかった。タブレットPCは2002年前後から登場し、このコンパチブルタイプの出荷台数はわずか1,000万台（世界ノートブック出荷台数の5～6%）の水準に留まっていた。

一方、スレートタイプとは所謂iPadタイプを指す。アップル社が2010年にiPadを発売し、世界でタブレットPCブームが急速に広がった。市場の予測を下回る価格に加えて、全面マルチポイントタッチ操作のパネルを採用したため、従来のタブレットが持っていた特殊領域向けであること、しかも値段が高いというイメージを打ち破り、爆発的に普及していった。タブレットの操作を「ペンタッチ」方式から「指タッチ」へと進化させたことも普及の要因のひとつだろう。ノートブックパソコンの延長線上にある製品というより、独自の開発思想から生まれたスマートハンドヘルドデバイスと言ったほうがよい。

タブレットPCは決してノートブックパソコンのすべての性能を備えている必要はない。コンパチブルタイプがよりコンパクトでパワフルな機能へ向かう一方、スレートタイプはより軽く高い機動性に向かう。しかし、すべてのノートブックのすべての機能をカバーする必要はなく、製品機能、使用インターフェース、価格などにおいて独自のマーケットを形成していくことが予想される。これがこれまでのタブレットPCとは違う点だ。

市場で需要が急増するのに伴い、メーカー各社



は次々とタブレットの開発に着手し製品を発売しており、市場競争は激化しつつある。一方、ノートブックパソコンやネットブックも既存の市場においてタブレットとの厳しい競争に直面している。今年の COMPUTE 2011 では各社からさまざまなタブレットが発表されている。特に、ASUS が発表しているキーボードと分離できる薄型ノートは注目。スクリーンはタッチパネル式でドッキング型のキーボードを取り外せば、まさに iPad 感覚で使うことができる。台湾ではすでに市場にお目見えしていて、ユーザーからの評価も高い。日本でも早く市販してほしいところだ。



会場でも一際注目を集めた ASUS (華碩) の Eee Pad、ベストチョイスアワードを受賞するなど国内外バイヤーから注目を集めた



iPad 関連の周辺機器も続々登場。写真は脱着式キーボードが収納できる iPad 用のカバー。昨年の COMPUTEX では珍しかったこうした製品が各社からたくさん出展されていた



写真はソーラーパネルをカバーに内蔵した電子ブックリーダー



各社からさまざまな iPad タイプのタブレットが発表された。今年はタブレット、スマートフォンなどスマートハンドヘルドが注目を集めた



今年の注目製品はスマートハンドヘルドデバイス。マイクロソフトもパートナーベンダーの製品を集めて Windows Phone を出展

## ■タブレットは市場を牽引するドル箱製品になる？

2010年4月アップルがタブレット iPad を発売し、直観的なタッチパネル操作インターフェースやアプリケーション・マーケットプレイスでタブレット市場でのシェアを急速に伸ばした。製品設計、アプリケーションサービス及び販売価格などの面でノート PC とは明らかに市場が異なり、米国、欧州などの地域で発売されて以来、最初の四半期だけで販売台数 327 万台という実績を達成した。

デル、HP、Marvell、マイクロソフト、Motion Computing、ソニー、サムスンなど次々と iPad に類似したタブレットを発売し、台湾ノートブック大手である Acer (宏碁) や Asus (華碩)、さらに世界的なブランドメーカーである富士通、レノボもこの市場に意欲的だ。

近年パソコン産業とコンシューマエレクトロニクス産業の変動がとくに激しく、従来デジタルカメラ、PND、ポータブルゲーム機のようなコンシューマエレクトロニクス製品の機能がいずれも携帯電話端末 (特にスマートフォン) に導入され、ゲーム、音楽、ビデオ、テレビ、スケジュール管理、インターネット、メールなどの機能が利用できるようになった。このためスマートフォンの近年の成長率は単一の機能しか持たないコンシューマエレクトロニクス製品を大きく上回っている。パソコン産業ではここ数年ノートブックが高い人気を博し、消費者に安くてよりコンパクトなインターネットツールを提供してきた。

しかし、COMPUTEX では今まさに世界の Wi-Fi、3G/3.5G、モバイル環境の成熟やスマートフォン、ネットブック、電子ブックリーダーなどが新しい製品分野を開拓していく中で、次世代タブレットが注目を集めている。次世代タブレットは従来のコンバチブルタイプより大きな進化を果たし、サイズ、CPU、OS がすべて新しくなり、

価格は 500~1000 米ドルで従来の 1500 米ドルに比べて低い水準にある。

関連のアプリケーションもゲーム、ビデオ再生、電子ブック、インターネット機能などを搭載しており、もはや従来の教育、金融保険、物流倉庫、医療機関、安全保障などのビジネス市場に限定されることはない。次世代タブレットはコンシューマエレクトロニクス分野のひとつの製品カテゴリーとしてその地位を確率するだろう。今後、タブレット出荷台数が爆発的に伸びることが予想される。

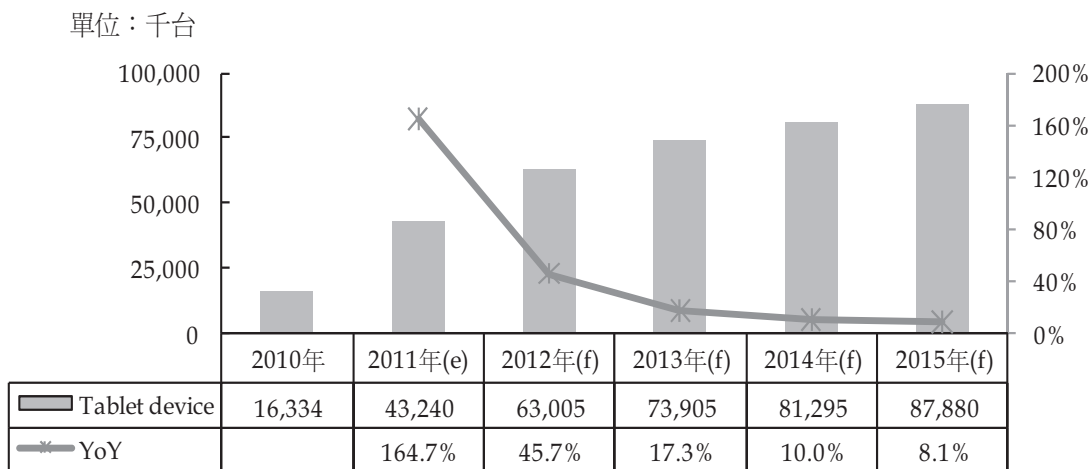
iPad の外観はノートブックよりもさらに薄くコンパクトで、スタンバイ時間も長く、多くの消費者がどこへでも携帯でき、いつでも使用できる応用環境を作り上げている。タッチパネル操作機能は iPhone のタッチパネルの感度と直観的な使用画面を踏襲することで iPhone ユーザーが使い慣れたものとし、新しい使い方を学ぶ必要性を最小限に留め、ユーザーに負担をかけずにユーザーの注意をインターネット検索やその他の付属機能に向けることに成功している。

また 9.7 型の大きなスクリーンによる利便性や快適さを感じることができる。iPad の商品位置づけにおいてマルチメディア娯楽機能が強調されており、シリーズのアップル製品との接続統合が強化され、演算機能を強調するノートブックとは全く異なり、市場が差別化されている。このため iPhone とノートブックなどのモバイル演算端末との中間において特殊な位置付けとしている。

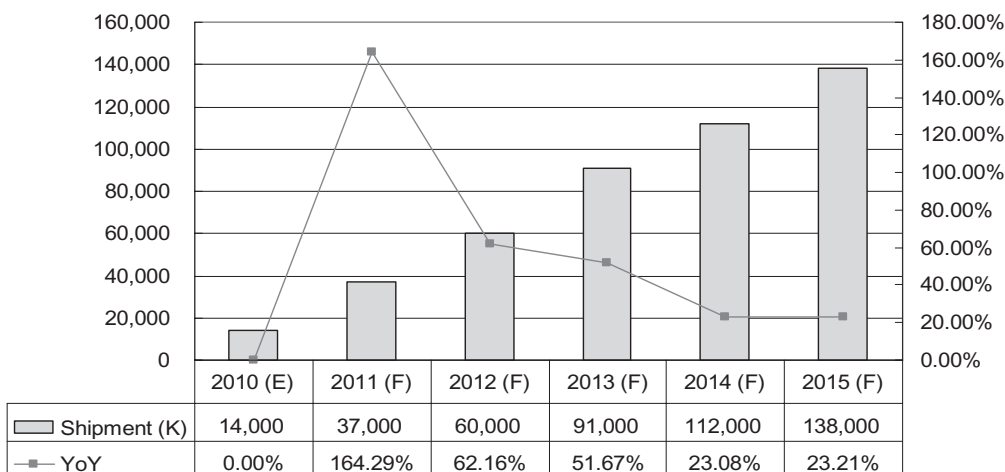
## ■タブレットの市場予測

資策会市場情報センター (MIC) によると 2010 年タブレットの出荷台数は約 1,600 万台余りに達し、そのうちアップル iPad が 95% を占める。2011 年第 2 四半期 (4 月~6 月) 以降は台湾ベンダーをはじめ各社が次々とタブレットを発売し、2011 年全体の出荷台数が 4,300 万台余りに達し、

◇ 2010～2015年タブレット出荷台数/資策会市場情報センター (MIC)



◇ 2010～2015年タブレット出荷台数/拓堯産業研究所



資料出所：拓堯産業研究所 (2010年9月)

iPad が占める比率は 71% 程度になる。

iPad の出現は台湾のタブレット PC におけるビジネスに新しい方向性をもたらした。OEM に生産受注という分野だけでなく、アプリケーション分野においてもさまざまビジネスの可能性を提案している。携帯電話、パソコン、コンテンツ、通信キャリア、コンシューマエレクトロニクスなど、それぞれの分野からの新機種参入が予想される。販売、流通分野からかつて PC の分野でもあったように独自ブランドで市場に参入してくる動きも考えられる。

プラットフォームについても PC で汎用されている Wintel 以外に、Apple iOS、RIM QNX、HP

webOS 等のクローズシステムや Google Android、Intel と Nokia が共同で推進する MeeGo 等のオープンシステムを含む ARM に搭載される各種 OS がある。2011 年に出荷されるタブレットに搭載される OS は依然 Apple iOS が最も多く、Google Android がそれに次ぐことが予測される。

また、民間のシンクタンクである拓堯産業研究所は 2010 年タブレットの出荷台数が 1400 万台、2015 年には 1 億 3000 万台に達すると予測している。今後タブレットの発展の重点と出荷量はスレートタブレット型に集中するものとみられている。



拓璞産業研究所では2014年にタブレットPCは1億台を突破し、2015年には1億3,800万台に達するだろうことを予測している。新興国市場の旺盛な需要により、後発性メリットを享受できる市場では、通信キャリアとの提携により、家庭やオフィスにメインマシンとしてのノートブックが普及するより先に、個人が携帯するタブレットPCが需要を伸ばすという予想だ。

販売については、ノートブックが通信キャリアの販路で販売されて成功したのに続き、通信キャリアは電話番号契約と組み合わせて携帯電話端末の価格を下げるほか、異業種の製品やサービスを組み合わせることで通信費を増やしたり、通信キャリアの販路で製品を販売する国（地域）も増えることも考えられる。多くは消費市場では話題性が高く、販売力をそなえる製品、例えばノートブック、ゲーム機、自転車、民生電子製品などを選択する。製品販売にプラスの宣伝効果をもたらすだけでなく、通信業者も通信費で補填することで製品の販売価格を引下げることができ、消費者の購入意欲を高め、ICT業者、通信業者、消費者のいずれにもメリットがもたらされている。

ここでCOMPUTEXで扱われている製品を理解するためにそれらの定義を考えてみたい。台湾IT産業に関する産業統計を発表している資策会(III)ではそれぞれの製品の定義を次のように考えている。

- ・ノートブック：スクリーンサイズが10.4型以上のノートブック
- ・ノートブック：スクリーンサイズが7型以上10.4型未満のノートブック
- ・タブレット：スクリーンサイズが7型から12型、タッチスクリーンで無線ネット接続機能を備えている。キーボードがなく限られたOSやアプリケーションプログラムの専用タブレットとフル機能のOSやアプリケーションプログラムを含むタブレットPCがある。

2011年世界ノートブックの発展動向をみると、アジア太平洋市場では景気が明らかに回復基調を維持した後に急成長を呈し、中国市場が成長の原動力の一つとなることが予測される。さらに、新興市場の成長力も徐々に高まり、無線ネット等のインフラが整備された後、消費者はノートブックを主な調達機種とする状況が主流となり、全体の出荷を後押しする主力となるだろう。しかしながら総体的にみると、2011年世界ノートブック市場は引き続き成長はしていくものの、その成長には限界があり2011年の成長率を15.2%、およそ1億7,600万台と予測している。

資策会では、今後のタブレットは7～10型静電容量式マルチポイントタッチスクリーン、LEDバックライト、インテル又はARMのCPUを搭載し、重さは0.5～1キログラムとなる。SSDまたはフラッシュモジュールのストレージ容量をそなえ、バッテリー駆動時間は10時間以上、Wi-Fi、ブルートゥース、DVI、HDMI等の端子を内蔵、OSはAndroid、Chrome OS、Windows 7またはLinux等から選択できるようになり、価格は300～500米ドルと予測。台湾企業は次世代のノートブックをこうしたスペックを目標に開発に取り組んでいる。

これからのタブレットはスクリーンサイズ、バックライト、タッチパネル技術、ユーザーインターフェース、HD容量、重量、駆動時間、OS、出力端子などすべてが大きく変化する。台湾メーカーはアップル以外にARMやGoogleのタブレットに対する今後の影響に注意し、密接に提携する機会を探していく。台湾ベンダーにとってノートブックパソコンに次ぐ「ドル箱製品」をどのように作り上げていくのか、新しい設計思想でのノートブックパソコンかノートブックか、スマートハンドヘルドデバイスの製品群の中でどんな製品が抜きん出てくるのか、今後の市場動向に注目していきたい。



COMPUTEX に変化が見られるようになってきた。インターネットソリューション関連の出展が目立つようになった。ハードからソフトへ、アプリケーションやソリューションの出展が注目を集めた。



メディカルエレクトロニクスも COMPUTEX の注目分野のひとつ。医療の周辺分野での IT を活用したさまざまなソリューション端末が出展



ジェスチャーセンサーを出展する企業（技術出展）、今後インターネットテレビやホームグリッド関連製品への応用が期待される



モニターを装備したハイテク(?)車椅子。車椅子に乗りながらさまざまな情報のやりとりができる

## 台湾海峡をめぐる動向 (2011年6～7月)

# 「ECFA 調印 1 年と中国人観光客の個人旅行解禁」

松本充豊 (天理大学国際学部)

## 1. ECFA 調印から 1 年

### (1) 中台双方のコメント

2011年6月29日、台湾と中国との自由貿易協定 (FTA) に相当する「兩岸経済協力枠組み協議 (ECFA)」の調印から1年を迎えた。台湾・行政院大陸委員会の頼幸媛主任委員は28日、ECFAの調印後、失業率が低下する一方で平均給与が増加したほか、農産品の中国への輸出が大幅に拡大したことなど、ECFAによる台湾への経済効果が大きいことを強調した<sup>1</sup>。行政院大陸委員会はまた、中台兩岸の経済・貿易活動の制度化が進み、台湾が世界経済の舞台へ復帰することにもつながったとの評価を示した<sup>2</sup>。

中国・國務院台湾事務弁公室の楊毅報道官もまた29日の定例記者会見で、ECFA調印後の1年間に中台間では経済・貿易面での往来や協力が円滑に進み成果を収めているとしたうえで、ECFAは兩岸の同胞に目に見える利益をもたらし、中華民族全体の利益にとってプラスとなる良い協議であると述べた<sup>3</sup>。

ECFAの経済効果の大きさを強調する行政院大陸委員会に対して、野党・民主進歩党 (以下、民進党) は馬英九政権が掲げた「ECFA 神話」はことごとく崩れたと批判している。台湾社会における貧富の格差は史上最高の75倍に達し、失業率は韓国、香港、シンガポールよりも高く、競争力も最も低い、というのが民進党の主張である。政権の行方を決める次期総統選挙を半年後に控えて、ECFAの経済効果をめぐっては政権側と野党側の評価がはっきり分かれた形となった。

### (2) 経済効果に対する評価

#### ① 政権側の見解

行政院大陸委員会はECFAの経済効果が徐々にあらわれていると主張しているが、その理由として次のような成果があげられている。

まず貿易については、台湾側の税関の統計によると、今年1月から5月まで、香港を含む中国への輸出額は昨年と同じ時期に比べて11.1%増加した。その一方で、アセアン6カ国への輸出もまた昨年と同じ時期に比べて29.9%の伸びを見せている。香港を含む中国への輸出額が輸出総額に占める割合は、昨年と同じ時期の43.3%から40.7%に低下した。そのため、台湾の対外貿易が全体として拡大している一方で、対中依存は強まっていない、と大陸委員会は強調している。

農民の利益も増加している。行政院農業委員会の統計によると、ECFAのアーリーハーベストの対象品目となった農産品については、今年1月から5月までの中国への輸出額は4,942万米ドル、昨年と同じ時期に比べて790万米ドル増加し、5.26倍もの大幅な成長となった。関税の減免により輸出競争力が向上し、3年以内にはそれらの農産品の中国への輸出額は2009年の1,608万米ドルから1億1,000万米ドルにまで増えるものと見込まれている<sup>4</sup>。

また、労働者の就業率、給与ともに増加している。ECFAの調印後、失業率が毎月低下し、今年5月の失業率は4.27%で過去33ヶ月来最も低い数値となっている。行政院主計処の調査によると、今年1月から4月の平均給与は52,505元、去年1年間の平均給与に比べて8,075元増加している<sup>5</sup>。

さらに、台湾の競争力も高まっている。スイス国



際経済開発研究所 (IMD) が発表した 2011 年世界競争力ランキングでは昨年の第 8 位から今年は第 6 位に上昇し、米国 BERI (ビジネス環境リスク評価会社) のレポートでも台湾の投資環境の評定 (POR) は世界第 4 位、アジアでは第 2 位となっている<sup>6</sup>。

このほかにも行政院大陸委員会は、ECFA 調印後、それに伴う経済効果が徐々にあらわれるにつれて、複数の国が台湾との二国間経済協力を強化したいとの意向を示していること、また台湾住民に対するビザなし待遇を与える国も 115 カ国に増加したことをとりあげ、ECFA が政治とは関係のない経済協議であり、台湾の主権を損なうものではないと強調している。また、中台関係に関する最新の世論調査の結果 (後述) から、政府の対中政策は住民からおおむね肯定的な評価が得られているとしている<sup>7</sup>。

## ② 民進党の見解

これに対して、民進党は真っ向から対立する見解を示している。同党は、ECFA によって中国への資金の流失に歯止めがかかったわけでも、外国企業の台湾への投資が増加しているわけでもないとして主張している。昨年 7 月から今年 5 月までに認可された台湾から中国への投資額は 118.88 億米ドルに達し、一昨年度の同じ時期に比べて 36.53% 増加している。昨年 7 月から今年 5 月に認可された華僑系・外資系企業による台湾への投資額は 33.22 億米ドルで、一昨年度の同じ時期に比べて 34% 縮小している。さらに、台湾企業が受注した注文の半分近くは中国で生産されていることから、国内での就業機会の創出にはつながらず、むしろ失業問題を悪化させているとしている。

貧富の格差についても、ECFA 実施後にはむしろ格差がさらに拡大し、富は少数の人々に集中しているという。全国の低収入の戸数・人数は 2010 年第 2 四半期の 107,626 戸 (262,403 人) から、2011 年第 1 四半期には 110,682 戸 (268,428 人) となり、それぞれ 3,056 戸 (2.8%)、6,025 人

(2.3%) 増加している。国民の実質平均賃金は 12 年前の水準の 43,542 円で、これはアジア NIEs で最低であるという。

また、台湾の競争力は中国、米国、日本など主要な輸出市場のいずれにおいても低下しており、アジア NIEs で最下位であると指摘している。台湾製品の中国市場における占有率は昨年の 8.29% から今年 1 月から 5 月には 7.44% に低下し、米国市場や日本市場における占有率も同様に低下している。今年 1 月から 4 月までの中国への輸出成長率もわずか 11.1% で、アセアン 6 カ国への輸出成長率 29.9%、米国への 28.3%、EU への 17.3% には遠く及ばないとしている。

さらに、ECFA 実施後、農民の多くが大きな打撃を受けているという。今年 1 月から 5 月までに、中国産農産品の輸入額は 3.2 億米ドルで、昨年と同じ時期に比べて 30.5% 増加しており、これに中国から密輸された農産品が加わって、台湾国内での農産品の価格は大きな影響を受けていると指摘している<sup>8</sup>。

## 2. 中台関係についての住民の見方

それでは、ECFA 調印から 1 年を迎える現在、台湾の住民は中台関係についてどのような見方を示しているのだろうか。ここでは、行政院大陸委員会が発表した最新の世論調査の結果<sup>9</sup> から、注目されるいくつかの項目をとりあげて紹介する。

### (1) 中台間の制度化された協議について

中台双方が制度化された協議を通じて中台交流における諸問題を処理することに対しては、72.8% が「支持する」と回答し、「支持しない」と回答したのは 13.6% だった。

強く支持する	支持する	支持しない	全く支持しない	わからない／無回答
18.6%	54.2%	8.6%	5.0%	13.6%
72.8%		13.6%		13.6%

(出所)『『民衆對當前兩岸關係之看法』例行性民意調查 問卷各題百分比配布表』、1頁。

昨年(2010年)のECFA調印後の2010年7月に行なわれた調査では、「支持する」と答えたのは79.3%、「支持しない」と答えたのは15.9%だった<sup>10</sup>。要するに、「わからない」と答えた人、あるいは無回答の割合が約1年前の4.8%から今回の13.6%へと大幅に増えたことになる。

### (2) 中台間で調印された15項目(ECFA等)の協議の成果について

台湾で馬英九政権が発足してから、中台間ではこれまでに台湾・海峡交流基金会(以下、海基会)の江丙坤董事長と中国・海峡兩岸關係協會(以下、海協會)の陳雲林会長による6回のトップ会談が開催され、ECFAをはじめとする15項目の協議に調印された。この15項目の協議の成果については、62.2%が「満足である」と回答し、「不満である」と回答したのは30.2%となっている。

非常に満足	満足	不満	非常に不満	わからない／無回答
14.3%	47.9%	16.3%	13.9%	7.6%
62.2%		30.2%		7.6%

(出所)『『民衆對當前兩岸關係之看法』例行性民意調查 問卷各題百分比配布表』、2～3頁。

ちなみに、質問の内容が多少異なるが、昨年7月の世論調査では、ECFAの交渉の成果に61.1%が「満足である」と答え、「不満である」と答えたのは30.0%だった<sup>11</sup>。

### (3) 台湾の利益が守られているかについて

中台間の交流と協議の締結が進むなかで、台湾の利益が守られているかどうかについては、51.2%が「守られている」と答え、36.6%が「守られていない」と答えている。昨年(2010年)の7月に行なわれた調査では、「守られている」と答えたのは66.8%、「支持しない」と答えたのは22.5%だった<sup>12</sup>。したがって、依然台湾の利益が「守られている」と考える住民が上回ってはいるものの、その割合は15ポイント以上減少し、その一方で「守られていない」と考える住民が15ポイント近く増加しているのである。

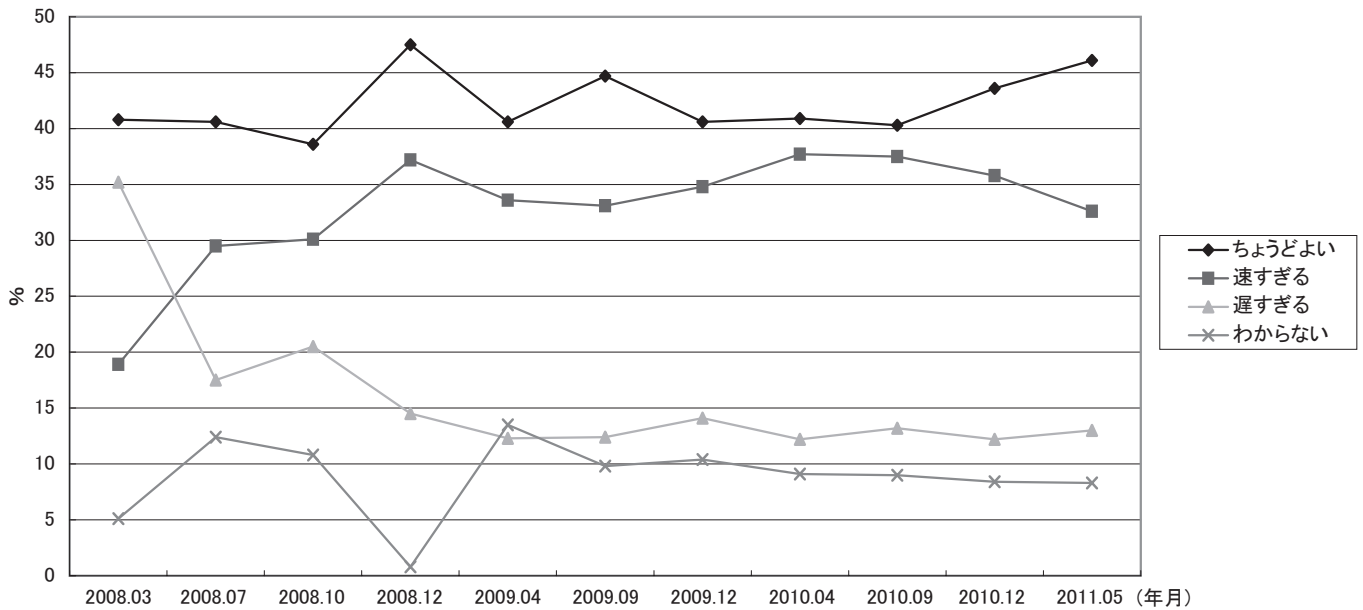
	守られている	守られていない	わからない／無回答
2010年7月	66.8%	22.5%	10.7%
2011年5月	51.2%	36.6%	12.2%

(出所)『『民衆對當前兩岸關係之看法』例行性民意調查 問卷各題百分比配布表』、2～3頁、「民衆對第五次『江陳會談』之看法民意調查 各題百分比配布表』、3頁。

### (4) 中台交流のスピードについて

中台交流のスピードについては、46.1%が「ちょうどよい」と回答し、「速すぎる」と回答したのは32.6%、「遅すぎる」と回答したのは13.0%となっている。図1は2008年3月からの住民の見方の推移を示したものだが、ECFA調印以降、中台交流の進展が「遅すぎる」あるいは「わからない」と答える住民の割合が横ばいであるのに対して、「速すぎる」と懸念していた住民が減少している一方で、それとほぼ同じ割合で「ちょうどよい」と考える住民が増えていることがわかる<sup>13</sup>。

図1 「中台交流のスピードに対する住民の見方」



(出所) 行政院大陸委員會「民眾對兩岸關係速度之看法」。

(5) 中台関係の改善による台湾の国際空間の拡大について

中台関係の改善が台湾の国際空間の拡大につながっているかどうかについては、63.7%が「つながっている」と回答し、「つながっていない」と回答したのは28.9%だった<sup>14</sup>。

大いにつながっている	つながっている	つながっていない	全くつながっていない	わからない / 無回答
14.3%	47.9%	16.3%	13.9%	7.6%
62.2%		30.2%		7.6%

(出所) 「『民眾對當前兩岸關係之看法』 例行性民意調査 問卷各題百分比配布表」、2頁。

(6) 統一、独立ないし現状維持に関する住民の立場について

図2 (P.40) は、住民の統一、独立あるいは現状維持に関する立場について、2008年8月から今年5月までの推移を示したものである。広義の「現状維持」を支持する立場、すなわち①「現状維持して、後に決定する」、②「永遠に現状維持する」、③「現状維持して、後に独立する」、あるいは④「現状維持して、後に統一する」のがよいと考える住民が

88.4%を占めている<sup>15</sup>。全体として、現状維持派の住民が絶対多数を占める状況に変わりはないが、この1年足らずのあいだに、①と②の割合が減少する一方で、③が大きく増加し、④もわずかに増加している点は注目される。中国人観光客の受け入れが解禁されたことにより、台湾住民が日常的に大陸住民と接する機会が増えたことがその背景のひとつかもしれない。

3. 中国人観光客の個人旅行解禁

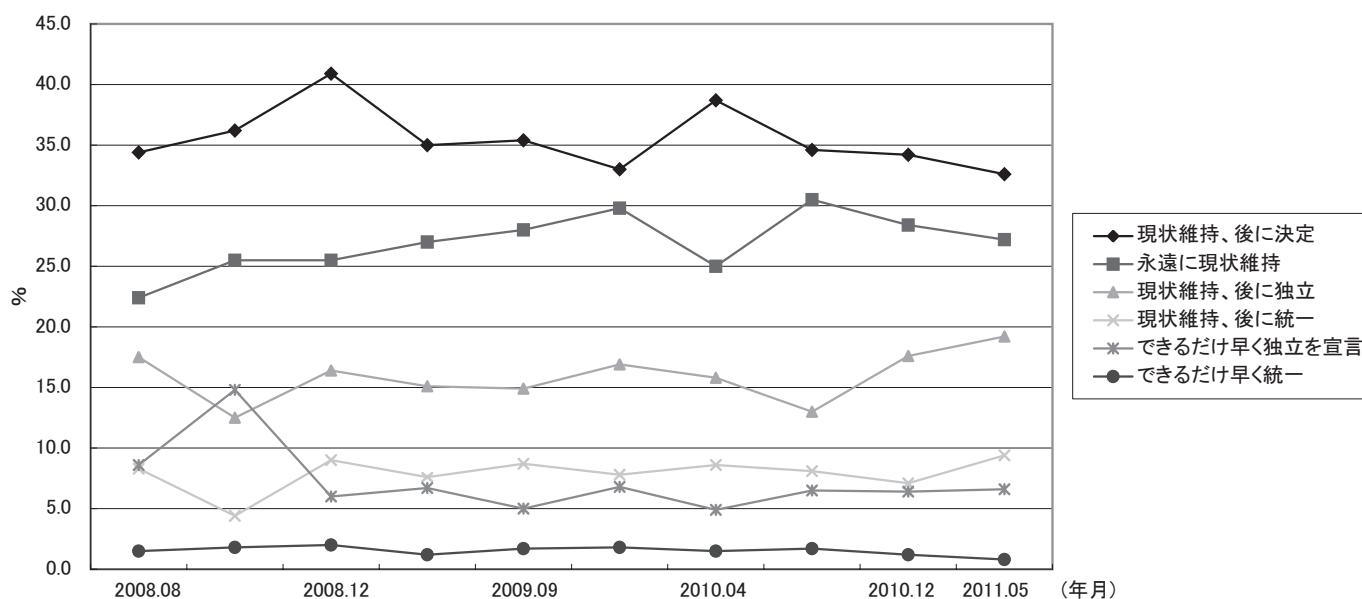
(1) 第1回「兩岸協議成效及検討会議」の開催

2011年6月8日、台湾・台北で第1回「兩岸協議成效及検討会議」(兩岸協議の成果および検討会議)が開催された。海協会の鄭立中常務副会長ら中国側の代表17名が台湾を訪れ、海基会の高孔廉副董事長ら台湾側の関係者とのあいだで、過去3年間に調印された15項目の協議のうち11項目の実施状況についての検討が行われた。

この会議では、中国人観光客の台湾への個人旅行の解禁、およびそれに合わせた中台直行便の増



図2 「統一、独立ないし現状維持に対する住民の立場」



(出所) 「民眾對統一、獨立或維持現況之看法：折線圖」。

便が発表された。また、台湾側が積極的に求めていた「小三通」方式による個人旅行についても、中国側は福建省住民による金門、馬祖、澎湖への個人旅行を開放することで同意した。

中国人観光客の個人旅行については、その後6月12日に中国・厦門で開催された第3回「海峡論壇」(海峡フォーラム)で、国務院台湾事務弁公室の王毅主任から、まずは北京、上海と厦門の住民を対象に6月28日から解禁されることが発表された。福建省住民による「小三通」方式による金門、馬祖、澎湖への個人旅行も解禁されることになった。また、7月1日から台湾住民の中国渡航の際のビザ発行手数料が50%引き下げられることになった<sup>16</sup>。

## (2) 中台直行便の増便

中台直行便の便数は、週558便に増便されることが決まった。今回の増便は2段階にわけて実施される。まずは北京、上海、無錫を対象に約40~50便が1ヶ月以内に優先的に増便される。その他の130便あまりについては、10月末から増

便されることになる。北京と上海(浦東)については、夜12時から翌朝7時までに発着する便が、北京では週6便、上海では週2便増便される。その他の3つの空港では通常の旅客便が増便されるが、広州、深圳、上海(虹橋)などの人気のある空港では離着陸可能な時間帯の枠がないため増便は見送られた。

直行便の増便にあわせて発着地となる空港も増えることになった。中国側では江蘇省の塩城、浙江省の温州、安徽省の黄山および甘肅省の蘭州、台湾側では台南が新たに加わった。まずは塩城と台南から直行便の運航がスタートし、中国側のその他の3つの空港については設備がまだ十分整っていないため今年の年末からの運航開始となる。これにより中国側で開放された空港は41カ所、台湾側は9カ所となった。

このほか、5月から10月の夏季旅行シーズンには、中台双方の航空会社は毎月20便を上限に、福建省と澎湖とのあいだでチャーター便を運航できることになった。また、現行の月40便のチャーター便のうち、花蓮、台東、台中に向かう便は定

期便に変更される見通しとなった。貨物直行便も重慶2便、福州と厦門がそれぞれ1便、合計4便が増便されることになった。なお、春節の増便については10月中に協議されることが決まった<sup>17</sup>。

### (3) 中国人観光客の受け入れ解禁後の実績

ここで、2008年7月18日に中国人観光客の団体旅行が解禁されてからの動きを確認しておきたい。2011年5月31日までに台湾を訪れた中国人の数はのべ351万5,629人で、その内訳は観光目的で訪れた団体客が235万4,036人、ビジネスその他の目的による旅客が116万1,593人となっている。1日あたりの観光客の数も2008年の平均300人から、2009年には平均1,611人、2010年には平均3,199人と増加している。

中国人旅客の消費動向を調査した結果によると、2008年7月から2011年5月末までに中国人旅客全体では総額64.5億米ドル(2,033億台湾元)、団体観光客だけでも38億米ドル(1,197億台湾元)の外貨収入をもたらしている。現在では、中国大陸の31の省・市の住民がみな台湾を観光で訪れることが可能となっており、台湾側での観光客受け入れ人数の上限も2011年1月1日より1日あたり4,000人に引き上げられた。

他方、2008年7月18日から2011年6月20日までに、中国人観光客の不法滞在、あるいは行方不明事件が63件(人数にして76人)発生したが、すでに42人が捕らえられている。不法滞在率は約0.003%で、近隣諸国における中国人の不法滞在率(たとえば日本では0.09%)と比べると最も低い数字になっているという<sup>18</sup>。ちなみに、団体ツアーから脱走した中国人については、年齢別では20歳から29歳の女性が最も多く、その次が30歳から39歳までの女性で、地域別では広東省、福建省の出身者が多いという報道もある<sup>19</sup>。

### (4) 個人旅行解禁の経済効果

中国人観光客による個人旅行の解禁に伴い、台湾ではさらなる経済効果に大きな期待が寄せられている。1日あたりの受入人数が500人であるから、年間18万2,500人の中国人観光客が個人旅行で台湾を訪れることになる。交通部観光局の推計では、1日あたり500人、滞在期間を7日から15日、1人あたりの消費金額を245.43米ドルとして、1米ドル29台湾元の為替レートで計算すると、年間91億~195億台湾元の観光収入が期待できる<sup>20</sup>。また、行政院主計処の推計でも、個人旅行の解禁に伴う台湾への直接的な収益は年間90億台湾元、周辺的な利益はさらに年間300億台湾元に達すると予測されている<sup>21</sup>。

団体ツアーでは滞在先や訪問先となる観光地も限定されているが、個人旅行客の場合には台湾各地を訪れ、また訪問の目的もさまざまであると予想されるため、観光産業だけでなく周辺の関連産業や地方経済への波及効果が期待されている<sup>22</sup>。2003年に中国人の個人旅行を解禁した香港では、中国人観光客が当初の440万人から昨年には2,270万人にまで増加し、2,400億香港ドルの観光収入をもたらされた<sup>23</sup>。羨望の的だったビジネスチャンスの実現も目前に迫っていると台湾の業者は大きな期待を膨らませている。

### (5) 台湾住民の反応

台湾住民は、中国人観光客の個人旅行の解禁をどのように受け止めているのだろうか。行政院大陸委員会が7月16日に発表した世論調査によると、中国人観光客の個人旅行の解禁は台湾の経済発展を促進する「助けとなる」と回答したのは68.7%、「助けにならない」と答えたのは23.0%となっている。また、個人旅行の受け入れを解禁した政府の政策に対しては、56.1%が「支持する」と回答し、32.1%が「支持しない」と回答している。こうした結果から、行政院大陸委員会は多数

の住民が政府の政策に対して肯定的な評価を下している」と結論づけている<sup>24</sup>。

### (6) 中国人観光客に人気の商品

中国人観光客の購買意欲の高さは台湾でもすでによく知られている。彼らがコンビニエンスストアでこぞって買い物をする光景はもはや珍しくないが、台湾土産として購入される商品を扱う業者もまた、個人旅行解禁に伴うビジネスチャンスをつかむことに余念がない。

中国人観光客に人気があるのは、やはり台湾各地の特産品である。阿里山の茶、台中の太陽餅、宜蘭の牛舌餅などいろいろあるが、ダントツの人気を誇るのがパイナップルケーキ（鳳梨酥）である。パイナップルケーキといえば、台湾を訪れた日本人観光客のお土産としても有名だが、さらに中国人観光客による「特需」も加わって、昨年の生産高は250億台湾元に達した。2006年当時の生産高が約15億台湾元程度だったというから、この5年ほどで16倍に増加したことになる<sup>25</sup>。

中国人観光客に人気の高いショッピングスポットである台北101、太平洋そごう百貨店の統計でも、パイナップルケーキが一番の売れ筋である。彼らは一度に10箱、20箱と購入するため、少なくとも3000元、4000元は消費していることになる。台湾桃園国際空港に出店しているパイナップルケーキの製造業者によると、1週間の販売量は平均して600～700箱で、個人旅行の解禁で2～3割の増加が見込まれている。ビジネスチャンスを見越して、すでに工場を新設し生産能力の拡大を図っている業者もあるほか<sup>26</sup>、手作りのパイナップルケーキの老舗として知られるある業者は、中国人観光客向けに機械生産した商品をコンビニエンスストアで通常の半額で販売しているという<sup>27</sup>。

パイナップルケーキなどの特産品に次いで人気を博しているが、顔用シートマスクである<sup>28</sup>。コ

ンビエンスストアでは、観光地やホテルの周辺の店舗だけでなく、一般の店舗でも特設コーナーを設けて、台湾の特産品のほかにも人気の高い顔用のシートマスク、薬や化粧品などさまざまな商品を用意している<sup>29</sup>。

もうひとつの人気商品は、大同（TATUNG）の電気鍋（「大同電鍋」）である。かつては海外に留学する台湾人学生の必携品ともいわれた大同の電気鍋だが、中国大陸で愛用している台湾人ビジネスマンも少なくなく、さらに台湾人男性に嫁いだ中国人女性の口コミなどを通じて、中国人のあいだでもその存在が知られるところとなったようだ。大同の直売店（大同3C展售中心）では、中国人観光客が各店舗で購入した製品を空港で受け取れるよう免税店と交渉を進めているという<sup>30</sup>。

### (7) 銀連カードの使用範囲も拡大

日本でも中国人観光客を呼び込むために、銀連（「银联」、China Union Pay）カードが使えるATMや店舗が増えているが、台湾でも同カードの使用範囲も拡大されることになった。銀連カードとは日本でいうところのデビットカード機能がついたキャッシュカードである。台湾では昨年7月から銀連カードが使用できるようになり、現在台湾の銀行18行、1万6,000台のATMでの台湾元の引き出しが可能になっている。

今回、台湾各地にある郵便局のATM3000台あまりで同カードを使って台湾元の現金を引き出せるようになるほか、台湾高速鉄道、7000台を擁する大手タクシー会社「台湾大車隊」でも同カードによる支払いが可能になる。現在、ATMの設置場所は都市部やコンビニエンスストアに集中しており、地方にもネットワークが広がる郵便局のATMでも銀連カードが使えるようになれば、個人旅行で各地を訪れる中国人観光客にとって大いに利便性が高まるものと思われる。

今年5月までに同カードによるATMでの引



出額は約 130 億台湾元、決済額は約 100 億台湾元の規模に達している。銀行関係者によると、個人旅行の解禁に伴い同カードの使用量も大幅に増加すると予想され、ATM による引出額とカードによる決済額をあわせると年間 500 億台湾元になるものと見込まれている<sup>31</sup>。

#### 4. 解禁日とその直後の動き

##### (1) 初日は 282 人が到着

2011 年 6 月 28 日、中国から台湾への個人旅行が解禁され、第 1 陣となる 282 人が台湾に到着した。厦門からの旅客のなかには、「小三通」によりまずは金門島に船で渡り、そこから飛行機に乗って台中・清泉崗空港や台北・松山空港に到着した旅客もあった。

解禁初日に台湾を訪れた旅客の多くがすでに何度も訪台していることもあり、その目的もマンション物件の視察、健康診断の受診、書籍の購入、ショッピング、故宮博物院の見学、夜市の見物やナイトライフを楽しむことなどさまざまだった。家族連れ、母子連れ、会社の同僚同士、一人旅など訪問のスタイルもいろいろで、滞在期間は最短で 3 日間、最長は 14 日間であった<sup>32</sup>。

今回は 291 人が個人旅行を申請したが、9 人は書類不備のため許可が得られなかった。個人旅行者の第 1 陣は 500 人の上限には届かなかったが、今後は徐々に増加し、2 ヶ月後には上限に達すると見込まれている。特に 7 月からは夏休みに入ることから、バックパッカーも増えると予想されている<sup>33</sup>。

##### (2) 観光業者の懸念

解禁直後の個人旅行者は、申請手続きの遅れなどの理由から期待されたほどの数にはならなかった。200 人を超えたのは解禁初日だけで、7 月 3 日までの訪台人数は 1 日あたり 100 人あまりにと

どまった。さらに、団体旅行者も日本に向かうケースが増えことで、個人旅行解禁後の中国人観光客の訪台人数は 1 日あたり 2,054 人とどまり、今年の年明け頃に比べて半減している。

観光業者は、台湾が選挙シーズンに入ると、中国人観光客の数がさらに減少するのではと懸念している。今年 9 月以降、中国側は来年 1 月の総統選挙・立法委員選挙への影響を避けるため、政府関係者の訪台を控える方針であるともいわれている。台湾側も治安への影響を避けるため、総統選挙が終わるまでは個人旅行者の上限枠を広げることはないとみられている。観光業者のあいだには最近中国人の団体旅行者が減っているという実感があるようだが、中国側のハイレベルな企業訪問団では団体旅行から個人旅行に切り替える動きもみられるという<sup>34</sup>。

##### (3) 人民元による支払いも

大陸人観光客が台湾元ではなく、直接人民元で消費するケースが増えていると報じられている。大手のコンビニエンスストアや薬局、化粧品店のなかには、中国人観光客に人民元で商品を販売する店もある。代金の支払いを人民元で受けることは違法だが、そうした店の情報はインターネットを通じて中国人観光客のあいだでもすでに知れ渡っているらしい。その結果、彼らが台湾元に換金する金額も少なくともこれまでの半分程度にまで落ち込んでいるともいわれる。旅行業者の話によれば、中国人観光客も以前は 1 人あたり 1～2 万台湾元程度は換金していたが、今では 1,000～2,000 台湾元ほどしか換金しなくなり、空港の銀行の前で長蛇の列を見かけることもなくなったという<sup>35</sup>。

##### (4) 「小三通」方式による個人旅行も解禁

7 月 29 日からは、福建省の住民による金門、馬祖、澎湖への個人旅行(いわゆる「小三通自由行」)

が解禁された。福建省住民は1日あたりの受け入れ人数の制限や支弁能力証明なしに金門、馬祖、澎湖各地を自由に訪れることができるが、各地から台湾本島に行くことはできない。なお、滞在期間が台湾到着から15日を超えてはならないことなど他の規定については、一般の中国人観光客の個人旅行の規定と同様である。今回は福建省の住民のみが対象とされているが、今後状況を見ながらその他の省・市の住民にも開放されることになる。こうした「小三通」方式による個人旅行の解禁、さらには今後の拡大によって、金門、馬祖、澎湖各地の観光産業の発展と離島の経済発展につながることを期待されている<sup>36</sup>。

## 5. 馬英九総統が「正体字」の使用を指示

馬英九総統は6月15日、政府の公式文書、ホームページではすべて「正体字」（いわゆる繁体字のこと）を使用し、政府機関の「簡体字」（中国大陸で用いられている、字体が簡略化された漢字）のサイトは直ちに閉鎖するよう指示した。業務上必要である場合でも、正体字と簡体字の対照表を提供する方法で対応するよう求めた。馬総統はこの政策について、中華文化の牽引役としての立場に基づくものだと述べている<sup>37</sup>。

一般に繁体字として知られる文字について、馬総統はこれまでも正体字と呼ぶべきであると主張してきた。常用されている6,000～8,000字の漢字のうち、簡体字はわずか2,000字程度にすぎず、それ以外はもともとある文字なのだから、少数の文字の名称である簡体字と対照させて、もともとある文字を繁体字と呼ぶのは不正確だというのが

その理由である<sup>38</sup>。

馬総統の指示を受けて、交通部観光局などのホームページからは簡体字のサイトが削除された。総統府のホームページには、陳水扁総統の民進党政権下で2000年に簡体字サイトが設けられたが、馬総統は就任以来これに反対し、2010年のリニューアルの際に簡体字サイトはすでに閉鎖されている。

実は、この問題もまた中国人観光客と無関係ではない。最近では、中国人観光客を獲得するために、民間の商店などでも簡体字を使用するようになっており、馬総統はこうした状況にも憂慮しているという<sup>39</sup>。行政院は6月14日、簡体字をメニューや商品説明書で使用する商店が増えていることに対して、こうした行為は必要ないとのプレスリリースを発表した。多くの中国人に正体字を認識し、利用してもらうだけでなく、中台双方の住民が中華文化に対する認識を深めるためにも、正体字の普及に努めるよう呼びかけた。また、中国人観光客が台湾を訪れる主な目的のひとつは、中国大陸とは異なる文化、人情、風俗を体験することであり、正体字の美しさと実用性、それが持つ豊かな意義と価値は簡体字にないものであると強調した<sup>40</sup>。

なお、こうした動きに対して、中国・国務院台湾事務弁公室の楊毅報道官は6月15日の定例記者会見で、簡体字も繁体字もともに漢字であり、いずれも中華伝統文化に根ざすものであると同時に、中華文化を継承し発揚するための重要な手段であるとしたうえで、いずれの文字を使いにかについては台湾の商店がそれぞれ対応すればよいことだとコメントしている<sup>41</sup>。

<sup>1</sup> 「ECFA周年 台農産前5月銷陸 年増逾5倍」『工商時報』2011年6月29日。

<sup>2</sup> 行政院大陸委員會「ECFA 簽署一週年成效檢驗－落實『三不』承諾 執行效益逐漸擴大 100年6月28日」行政院大陸委員會ウェブサイト (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/162812485186.pdf>)、1～2頁。

<sup>3</sup> 国务院台湾事务办公室「国台办新闻发布会辑录（2011-6-29）」中国国務院台湾事務弁公室ウェブサイト (<http://www.gwythb>).

- gov.cn/xwfbh/201106/t20110629\_1905678.htm)。
- 4 行政院農業委員會「農委會 ECFA 早收執行成效答客問 (Q&A)」行政院大陸委員會ウェブサイト (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/16281249597.pdf>)、1 頁。
  - 5 行政院大陸委員會、前揭資料、3 頁。
  - 6 同上資料、2~4 頁。
  - 7 同上資料、2 頁、4 頁。
  - 8 新聞稿「陳其邁：ECFA 神話破滅，戳破馬政府 ECFA 牛皮 (2011-06-28)」民主進步黨ウェブサイト ([http://www.dpp.org.tw/news\\_content.php?sn=5039](http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=5039))。
  - 9 行政院大陸委員會新聞稿「陸委會：多數民意高度肯定兩岸制度化協商」行政院大陸委員會ウェブサイト (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/1698592266.pdf>)、「『民眾對當前兩岸關係之看法』民意調查 (民國 100 年 5 月 27 日~30 日) 結果摘要」 (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/1698595658.pdf>)、「『民眾對當前兩岸關係之看法』例行性民意調查 問卷各題百分比配布表」 (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/1698594418.pdf>)、および「『民眾對當前兩岸關係之看法』民意調查 (2011-05-27~2011-05-30) 統計圖表」 (<http://www.mac.gov.tw/ct.asp?xItem=95622&ctNode=7171&mp=1>)。
  - 10 行政院大陸委員會「民眾對第五次『江陳會談』之看法民意調查 各題百分比配布表」行政院大陸委員會ウェブサイト (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/07621323436.pdf>)、3 頁。
  - 11 同上資料、2 頁。
  - 12 同上資料、3 頁。
  - 13 行政院大陸委員會「民眾對兩岸關係速度之看法」行政院大陸委員會ウェブサイト (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/16913582578.gif>)。
  - 14 行政院大陸委員會、前揭資料「『民眾對當前兩岸關係之看法』例行性民意調查 問卷各題百分比配布表」、2 頁。
  - 15 「民眾對統一、獨立或維持現況之看法：折線圖」行政院大陸委員會ウェブサイト (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/1691358698.gif>)。
  - 16 「7 月 1 日 台證簽證費降 50%；本月 28 日啟動陸客自由行首批試點 大陸宣布 20 多項惠台措施 新增多地辦落地簽」『中國時報』2011 年 6 月 13 日。
  - 17 「兩岸直航 每周增為 558 班 大陸航點新增江蘇鹽城、浙江溫州、安徽黃山及甘肅蘭州 台灣增台南 優先增飛北京、上海、無錫」『中國時報』2011 年 6 月 9 日。
  - 18 交通部觀光局「陸客來臺自由行政策說明」、1~3 頁、行政院大陸委員會「開放陸客自由行的政策意義：擴大相關產業受益層面 深度體驗台灣多元民主 (100 年 6 月 22 日)」行政院大陸委員會ウェブサイト (<http://www.mac.gov.tw/ct.asp?xItem=95844&ctNode=6409&mp=1>)、1~3 頁。
  - 19 「20 到 29 歲女性 最易脫團」『旺報』 (<http://www.want-daily.com/News/Content.aspx?id=0&yyyymmdd=20110611&k=17915aed7bb9a81196139f84ceafb832&h=c6f057b86584942e415435ffb1fa93d4&nid=K@20110611@N0011.001>) 2011 年 6 月 11 日。
  - 20 交通部觀光局、前揭資料、3 頁
  - 21 「兩岸旅遊 3 利多 啟動；628 開放陸客自由行 每年收益上看 300 億，離島小三通也開放在即」『工商時報』2011 年 6 月 13 日。
  - 22 交通部觀光局、前揭資料、3 頁。
  - 23 前揭資料「兩岸旅遊 3 利多 啟動；628 開放陸客自由行 每年收益上看 300 億，離島小三通也開放在即」。
  - 24 新聞稿「陸委會：多數民意支持政府開放陸客自由行 (2011-07-16)」行政院大陸委員會 (<http://www.mac.gov.tw/ct.asp?xItem=96413&ctNode=6409&mp=1>)、1 頁、「『民眾對政府大陸政策與兩岸協商之看法』民意調查 (民國 100 年 6 月 22-27 日) 結果摘要」 (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/1718935051.pdf>)、1 頁。
  - 25 「抓住味蕾 陸客狂掃「小金磚」 鳳梨酥產值 5 年飆至 250 億元」『中國時報』2011 年 6 月 23 日。
  - 26 同上資料、「自由行朝聖 鳳梨酥再旺 2 成 全台皆賣 包裝體面 烘焙金磚成陸客必帶伴手禮 店家印導覽 與小黃合作 打造自由行景點」『中國時報』2011 年 6 月 23 日。
  - 27 「陸客減半 觀光業悶」『經濟時報』2011 年 7 月 4 日。
  - 28 「標榜台灣製造 台商賣面膜 45 天狂銷 15 萬片」『聯合報』2011 年 6 月 21 日。
  - 29 「台灣商品 陸客一箱箱掃」『聯合報』2011 年 6 月 21 日。
  - 30 「大同電鍋 成陸客新寵」『聯合報』2011 年 6 月 21 日。
  - 31 「郵局 3 千 ATM 將通銀聯卡」『聯合報』2011 年 6 月 20 日。
  - 32 「自由行搶頭香 瘋台灣各玩各 首日登台兩百多人 多數來過台灣 此行目的多元：看屋、做健檢、逛書店、瞎拼、會親戚、看賽鴿…」『中國時報』2011 年 6 月 29 日。
  - 33 「自由行今啟動 282 人搶登台 小三通抵台中 廈門客跑第一」『中國時報』2011 年 6 月 29 日、「陸客自由行 首發團 282 人」『工商時報』2011 年 6 月 29 日。
  - 34 前揭資料「陸客減半 觀光業悶」。



- <sup>35</sup> 「人民幣『自由行』 超商藥妝店都收 不僅設鳳梨酥、面膜專櫃販售 風景區及飯店附近店家違收情況加溫 機場銀行兌換區不再排長龍」『中國時報』2011年6月30日。
- <sup>36</sup> 財團法人海峽交流基金會新聞稿「兩會確認29日起啟動福建居民赴金門馬祖澎湖地區個人旅遊（100年第051號新聞稿）100年7月27日」財團法人海峽交流基金會ウェブサイト（<http://www.sef.org.tw/ct.asp?xItem=240273&ctNode=4519&mp=1>）。
- <sup>37</sup> 「馬指示 政府官網禁用簡體字 憂心商家搶陸客過頭 指示維護文化領航地位 官方文件網站以正體字為主 簡體版須移除 提供對照表即可」『中國時報』2011年6月16日。
- <sup>38</sup> 「馬總統：蔣公堅用正體字 有先見之明」『聯合晚報』2011年6月16日。
- <sup>39</sup> 前揭資料「馬指示 政府官網禁用簡體字 憂心商家搶陸客過頭 指示維護文化領航地位 官方文件網站以正體字為主 簡體版須移除 提供對照表即可」。
- <sup>40</sup> 行政院即時新聞「正體字深化文化影響力，期民間共同推廣使用」行政院ウェブサイト（<http://info.gio.gov.tw/ct.asp?xItem=91054&ctNode=3764>）2011年6月14日。
- <sup>41</sup> 国务院台湾事务办公室「国台办新闻发布会辑录（2011-6-15）」中国国务院台湾事务办公室ウェブサイト（[http://www.gwyth.gov.cn/xwfbh/201106/t20110615\\_1888975.htm](http://www.gwyth.gov.cn/xwfbh/201106/t20110615_1888975.htm)）。

## 若者の目の輝き、日本は如何

(財) 交流協会専務理事 井上 孝

台湾在勤時における感激体験は数多くありますが、特に強い感動を覚えたものの一つが、台湾の若者たちの目の輝きでした。

印象に残ったものはいくつもありますが、その中でも最も強く記憶に残っているのが、士林高商で講演を行った時のものです。

私は1998年11月に台北市の北部郊外にある士林高等商業学校に招聘され、国際貿易科三年の全生徒約220名を前に「日台経済貿易の回顧と展望」と題し、2時間強にわたり講演を行いました。

仕事柄キャリアを通じて講師経験は多数あり、自分の講演が聴衆に浸透していない時、関心をひきつけていない時の会場の引いた感じ、なんとはなしのざわついた雰囲気は十分に承知しています。しかし、士林高商での講演の際は、全くそのような感じはなく、高校生に対してはやや硬めかなと危惧していた演題であったにもかかわらず、また、日本語での講演を同校の日本語堪能な台湾人教師に逐次通訳をしていただく形での講演であったにもかかわらず、最後まで会場の関心が途切れることはなく、また、講演後の生徒たちからの質疑も活発に行われました。あの時の会場には、交流協会台北事務所の経済責任者から何事かを学びとってやろうとの強い意志が満ち溢れていたように思います。

最後に、通訳をやっていただいた教師から、長時間にわたってこれほど熱意あふれる講演と質疑が行われたことは、主催者にとっても喜びであったとのクロージングが行われました。

私はこの時の体験を400個のきらきら輝く目に囲まれた昂揚した2時間として、強烈に記憶しています。

13年も昔の話です。

しかし、交流協会は台湾のジェットロに当たるタイトラの貿易人材研修プログラムに協力し、同プログラムの日本語科(英語は必須、加えて日本語を専攻)の研修生(毎年50人弱)の日本での研修先をあっせんする事業を長年続けてきておりますが、日本での引き受け先企業からも本プログラムは好評をいただいています。その理由をお聞きしますと、優秀な台湾人青年男女とコネクションができるということにはとどまらず、優秀でやる気のある台湾人青年が研修生として入ってくると日本人若手社員が刺激を受けて活性化するからというご意見をおっしゃる日本企業の方が多数いらっしゃいます。

貪欲に学ぼうとする台湾人青年の意欲は不変のようです。彼らの目の輝きは、13年前の士林高商の生徒さん達の目の輝きと一緒です。

日本の若い方の外への関心の衰えが叫ばれて久しくなります。しかし、海外留学希望者の減少にも歯止めがかかり始めたとの報道も出始めています。また、他方では、災害地のボランティア活動などに積極的に参加する日本の若者たちも多いようです。

今の日本の青年たちの、新しいこと、外のことを知ろうとする、学ぼうとする目の輝きはどうなのでしょう。

交流協会は、日台の青年交流促進に積極的に取り組んでいます。青年たちにお互いのことをもっと知ってもらうのは当然ですが、それに加えて、お互いに刺激し合うという効果も生まれているようです。また、この点は、日本にこそ必要なことなのかもしれません。いかがでしょうか。

なお、申しあげるまでもありませんが、以上はすべて筆者の私見です。

## 編集後記

まさかここまでやるとは。ほとんどの日本人が思っていた正直な感想ではなからうか。先般の女子ワールドカップでの「なでしこジャパン」の活躍には、日本中いや世界中の人々が目を見張るものであった。世界ランク4位となり上り調子にあり、善戦するであろうがまさか決勝に進出するのは。そして、一度も勝ったことのなかったアメリカチームを相手に2度のリードに追いつき延長戦をドロー、そして、PK戦を制しての優勝！あまりにも劇的結末にビックリ！！早朝6時台にもかかわらず最高視聴率27.7%、東日本大震災以降、疲弊している震災の被災者のみならず日本中の人々に不屈の闘志で勇気を与えた。焦りと緊張と極度の疲労を超越して120分もピッチを走り回り、栄冠を勝ち取った選手には頭の下がる思いでいっぱいである。

なぜ、これほどの活躍ができたのか？あらゆるメディア等でいろいろと取りざたされているが、地道な努力は当たり前のことながら、不屈の精神力と笑顔ではなかったと考える。スポーツ心理学に「ゾーン」という言葉があるらしい。過度な緊張でもリラクセーションでもない、ワクワク感や高揚感と集中力が共存する理想的な精神状態だそうだ。選手たちは、リードされている状況でも、残り時間がわずかな状況でも、手に汗握るPKの場面でもこの「ゾーン」状態だったと考えれば各選手の活躍に納得である。また、1勝勝ち進むごとにテレビの前で我々が手に汗握るとき、その緊張をよそに円陣の中にはいつも佐々木監督と選手たちの笑顔があった。専門家によれば、笑顔はリラクセーション、安心感やゆとりを与えるらしい。特に緊張が高まる状況においては、筋肉の緊張を解き良い結果を生みやすいそうだ。この「ゾーン」と「笑顔」の相乗効果で勝ち取った栄冠ではなからうか。この優勝による「なでしこ効果」でリーグの観客動員数が増加し、国民栄誉賞も受賞し選手たちの待遇も改善され女子サッカーへの関心も急増しているが、一過性のブームに終わらずに末長く全ての人々に愛されるスポーツとして発展してほしいものである。

日本では、1960年代から70年代に掛けて、サッカー競技を行う女性が増え始め、チームができ小規模なリーグによる対戦が行われるようになり、80年に全日本女子サッカー選手権大会が始まったとのこと。ちなみに、サッカー日本女子代表（「なでしこジャパン」の愛称は、「大和撫子」ということばと「世界に羽ばたき、世界に通用するように」との願いを込めて「ジャパン」と2004年7月7日に公募により命名された。）の初の国際試合の相手は、1981年になんと台湾（チャイニーズタイペイ）であった。

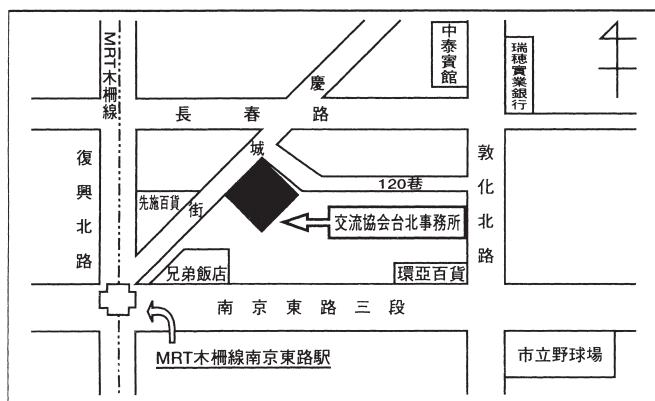
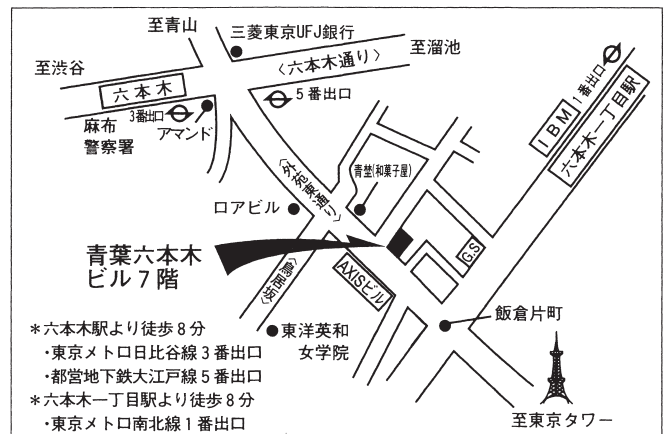
そして、「なでしこジャパン」の優勝の翌日から、当協会と日本サッカー協会が共催するU18の台湾サッカー選抜チームの日本合宿がスタートとなった。このタイミングに当該事業が行われるのも何かの縁であり、この選抜チームの面々が「なでしこパワー」を吸収して、今後素晴らし選手となって世界で活躍することを期待せずにはいられない。

（経理部次長 高橋 準市）

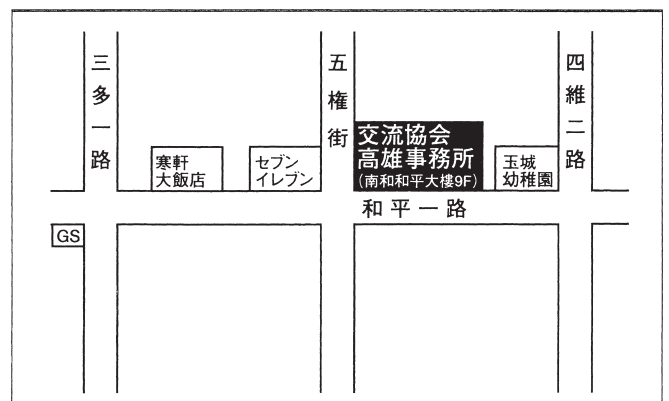


平成23年8月26日 発行  
 編集・発行人 井上 孝  
 発行所 郵便番号 106-0032  
 東京都港区六本木3丁目16番33号  
 青葉六本木ビル7階  
 財団法人 交流協会 総務部  
 電話 (03) 5573-2600  
 F A X (03) 5573-2601  
 U R L <http://www.koryu.or.jp>

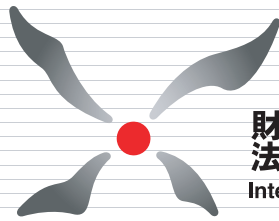
表紙デザイン：株式会社 丸井工文社  
 印刷所：株式会社 丸井工文社



台北事務所 台北市慶城街28號 通泰大樓  
 Tung Tai BLD., 28 Ching Cheng st., Taipei  
 電話 (886) 2-2713-8000  
 F A X (886) 2-2713-8787  
 URL [http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3\\_contents.nsf/Top](http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/Top)



高雄事務所 高雄市苓雅区和平一路87号  
 南和和平大樓9F  
 9F, 87 Hoping 1st. Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan  
 電話 (886) 7-771-4008 (代)  
 F A X (886) 2-771-2734  
 URL [http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/ez3\\_contents.nsf/Top](http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/ez3_contents.nsf/Top)



日本と台湾との架け橋

財団法人 **交流協会**  
Interchange Association, Japan (IAJ)

